

広報 Tome

Miyagi Tome Public Relations

すごい。カールの「とよま油麩丼味」だっ

特集

あの震災を忘れない	P 2
東陵高校 本市出身選手が甲子園へ	P16
「広報とめ」への意見・要望など	P18
トピックスとめ	P26
市民の広場	P32
市からのお知らせ・暮らしの情報	P34
ときめき人	P40

3.1

Mar 2014
Vol.213



あの震災を

特集

忘れない

平成 23 年 3 月 11 日、各地に未曾有の被害をもたらした東日本大震災からまもなく3年になろうとしています。この3年の節目に、市では本市の被害状況や震災対応などをまとめた記録誌の作成作業を進めています。震災の対応に追われた人や過酷な経験をした子どもたち、そして、震災をきっかけに新たな絆ができた人など、あの時、震災に向き合った人たちが、どのように行動し、そして何を感じたのか。記録誌に寄せられた体験談を中心に、あの震災を振り返ります。(2~15ページ)

学校が隣町住民の避難所に 住民らの協力で乗り切る

津波被害の隣町から峠越えの 避難者が着の身着のまま

子どもたちを保護者に引き渡し、地震で散乱した机や椅子の片付けをして一段落ついた頃、戸締まりのために体育館へ向かいました。午後4時30分頃だったと記憶しています。夕暮れ迫る中、6〜7人ほどの人々が校庭を横切って私の所に近づいて来ました。

グループのリーダーらしき男性が、「助けてください。ここに避難させてください」と声を掛けてきました。「どうしたのですか」と尋ねると、「自分たちは(志津川の)戸倉から来た。志津川は津波で全滅した。荒町地区(横山峠を志津川方面に向かって下ったす

ぐの地区)に逃げたが、その荒町も危ない…。歩いて峠を越えて逃げてきた」とのことでした。帰り支度をしていた職員にお願いし、すぐに体育館に避難者を受け入れる準備をしました。

2年前の豪雨災害の教訓生きる 地区輪番制の支援体制が確立

ほとんどの方が着の身着のままの状態でした。まず、少しでも体が暖まるようにと、家庭科室と職員室のガスコンロでお湯を沸かしてお茶を用意しました。

この間に体育館の床にブルーシートを敷きました。その上にあるだけの運動用マットを並べ、床からの寒さを防ぐようにしました。保健室にある毛布

最大震度6強を記録 内陸部でも甚大な被害

平成23年3月11日、午後2時46分に三陸沖を震源に発生した東北地方太平洋沖地震では、本市の米山、南方で最大震度6強を記録。4月7日に発生した宮城県沖を震源とする余震と合わせ、内陸に位置する登米市にも大きな被害をもたらしました。市内の人的被害は、死者28人(市外死亡者19人、災害関連死9人)、行方不明者4人、負傷者52人。住家と非住家の被害は、住家の全壊201棟、大規模半壊441棟、半壊1,360棟、一部破損3,364棟で、非住家被害は795棟。全国では死者18,703人、行方不明者2,674人(被害状況は平成25年9月1日現在)。



▲地震で崩落した東和総合運動公園



市教育委員会
いきいき学校支援室
千葉 整 さん
(当時：横山小教頭)

やタオルケットなども可能な限り配りました。

しかし、時間の経過とともに、それだけのスペースと物資では対応できないほどの避難者が集まって来ました。3月11日の夜には、30人近い人たちが体育館に避難していました。その後も

助けを求める人は後を絶たず、12日には200人を超える人たちが体育館に集まりました。

横山地区では、平成21年の秋に豪雨による小学校での避難所開設を経験しており、地区住民による支援体制が確立されていました。騒ぎを聞きつけた

地区の皆さんが、毛布や布団などを次々に運び込んでくださいました。また、おにぎりの支援はもちろん、地区を輪番にした炊き出し体制もしっかりとできていましたので、食事に関

する心配は全くありませんでした。市による避難所運営体制も11日の夜には整いました。その後、市の避難所運営者と学校との調整役として、横山小学校の男性職員が4日間ほど交代で

宿泊しました。それ以外は、全て市の職員の皆さんによる避難所運営が行われました。避難所開設当初から運営準備に当たってくださった市の職員の方は、そ

の後3日間ほど、24時間体制で体育館に詰めていらつしやいました。日を追うごとに見られる憔悴しょうたいしきった顔を見るたびに頭の下がる思いでした。改めて感謝申し上げます。

●避難所の開設・運営に奔走②

避難者の自主運営で自立へ 私自身が勇気付けられる日々



市内全域で道路などが破損（長沼ダム周辺の道路）

寒々とした体育館。避難者がここで新たな時を過ごすのか

平成23年3月11日、午後2時46分、当時私は福祉事務所生活福祉課に勤務していました。

その日は年度末と言うこともあり朝から慌ただしく過ごしていました。午後から予定していた用事を済ませ外出先から戻り自分のデスクに着いた時、今まで経験したことがない長く大きな揺れに見舞われました。

夕方から各地に避難所が開設されました。電気、水道といったライフラインや電話などの情報が途絶えた中で、よもや隣の南三陸町に大津波が押し寄せた事など夢にも思わないまま1日目の夜を迎えました。

大震災発生から2日目の3月13日、今日の自分の任務は何かと不安と焦りのまま職場に車を走らせ、その日も、いつも通りの朝礼が始まりました。所長から、今日より南三陸町から250人の避難者を登米市で受け入れる旨の



登米診療所事務局長
ひでひろ
佐川 英弘さん

(当時：福祉事務所生活福祉課)

市内最大の避難所になった迫体育館には、ピーク時に千人を超える市民が避難。底冷えのする体育館で、電気も水もない生活を強いられました



話がありました。第一陣が正午に到着、避難所は登米中学校の体育館という事でした。登米は私の地元でもあり、何かの役に立ちたいと思っていた矢先、所長から私に避難所開設の準備に当たれという指示がありました。

不安を抱いたまま私ほか二人の職員は、登米中学校の体育館に急ぎました。着いてみれば何事もなかったかのよう、がらんと寒々とした空間。全ての時間が止まった体育館は、これから南三陸町の避難者が新たな時を刻むにふさわしい場所とはどうてい思えませんでした。

避難所に自治会立ち上げ提案 職員と自治会で役割を分担

避難者の到着まであと2時間を切った頃、町内の防災無線による寝具、衣類、その他日用品の協力放送があり、体育館はあつと言う間に物資の山にな

りました。受け入れ予定の人数に足りる物資がそろい、あとは避難者の到着を待つばかりとなりました。

しかし、私には衣食の事だけではない最大の悩みがありました。それは、避難者の心のケアでした。食べ物や衣類が豊富にあっても、避難者が毎日下を向いて涙を拭う姿は、どうてい私には解決不可能と思われたのです。

避難所開設から3日後、私は避難所に自治会を立ち上げる旨の提案をしました。幸い、避難者の中に南三陸町の職員がいました。その方々がリーダーとなり、われわれ市職員と自治会が日々の生活における役割分担を担い、避難所の統制を図りました。

避難所は避難者の自主運営となり、それからは南三陸町の人々の団結力や自立に向けた気概が強く感じられるようになりました。心配していた心のケアどころか、私自身が勇気付けられる日々になったのです。



▲地震発生時の時刻を示したまま止まった時計

あの震災を 特集 忘れない

「命」に対する考え変わった 生きられなかつた人の分まで



南方中3年
星 朋日 さん
(当時：南方小6年)

南三陸町の様子に衝撃を受ける 祖父母の安否に緊張と不安が

「グオーゴオゴゴゴ……ドント」。その時起きたことは、一生忘れることはありません。私はまだ小学6年生でした。

帰りの会が終わわり、友達と一緒に階段を降りようと思ったその時、今まで経験したことのない揺れに襲われました。階段が激しく揺れ、ともに立つていられない状況の中、たくさんの人の悲鳴が聞こえ、一瞬のうちに恐怖と不安でいっぱいになりました。母に迎えに来てもらい無事に帰宅することができました。

母の携帯電話で南三陸町の様子を見

た私は衝撃を受けました。まるで高い壁のように濁った水が、木や車、たくさんの建物、土手の上の線路までも飲み込んでいたのです。私は、すぐに祖父母が無事なのか心配になりました。南三陸町には、私の祖父母が住んでいたからです。

次の日、私は祖父母の無事を確かめるため、家族と南三陸町へ向かいました。途中、緊張と不安で胸が押しつぶされそうでした。息をするのもひどく、苦しくてたまりませんでした。「とにかく無事でいて」。その一心でした。

失われたたくさんの「命」 生と死を分けたものは何か

南三陸町に入った途端、私は涙が止

6千人余りが避難 沿岸被災地も支援

震災直後、市民のための避難所を市内の公共施設など53カ所に開設。ピーク時(3月14日)の避難者は6,230人に上りました。津波の被害を受けた南三陸町など、隣接する沿岸被災者の受け入れ態勢も直後に整えました。市内に延べ11の避難所を開設。ピーク時には南三陸町や石巻市、女川町の住民833人が生活しました。南三陸町を支援するため、市内各種団体と協力し「南三陸物資輸送ボランティア」を立ち上げ、南三陸町の災害対策本部(ベイサイドアリーナ)に保管されている支援物資を、町内の主たる避難所に輸送しました。



▲南三陸町での支援物資の整理

まりませんでした。町にあった建物は消え、あるのは原形をとどめていないほどぐちゃぐちゃになった車、どこから来たのか分からない家の屋根、たくさんのがれきが町を埋め尽くしていました。道路があった場所も線路があった場所もどこがどこか分かりませんでした。

した。言葉にできないくらい悲しかったのを覚えています。私は、とにかく祖父母の家のある場所へ急ぎました。何とか無事でいてほしいと強く願いながら、がれきの中を進みました。思いが届いたのか、祖父は無事でした。無事を確認したとき、

言葉では言い表せないほどの安心と喜びを感じました。私はすぐに走り寄り、自分の思いを伝えました。無事で良かったこと、また会えてうれしかったこと、迎えに来たということ、泣きたいのを抑え必死で伝えました。

私はこの震災で、「命」というものについて考えました。生と死を分けたものは何だったのか、私にはよく分かりません。ただ、たくさんの尊い命が失われたのは事実です。逃げ遅れてしまった人、津波に気付かなかった人、まだ生まれて間もない小さな命もありました。

地震さえこなければ生きていられた人たち。この人たちのことを思うと、自分の命に対する考えが、これまでとは全く違うものになりました。「粗末にしてはいけない」「一生懸命生きなければ」という思いが、一層強くなりました。そして、家族を亡くした人の

悲しむ姿を見て、自分だけの命ではないことも知りました。「命」は何よりも重く、尊いものです。私は自分の命も他人の命も大切に、突然命を絶たれて生きられなかった人の分まで、精一杯生きたいと思いました。

子どもたちは何を感じたのか②

普通に生活できることが幸せ 一日も早く元の暮らしに

床をほうのように校庭に逃げる 寒さと余震、不安に涙が出た

3月11日、体育館で卒業式の準備をしていたら、先生が、「地震だ」と言いましました。「えっ、地震」。みんな作業の手を止めてぼおっとしていたら、ゴォーという地鳴りが聞こえてきて、下から突き上げるように、床がガタガタと揺れ始めました。

「きゃあ」。天井の鉄骨がバキバキと音を立て、ライトが今にも落ちてきそうです。私たちは、頭を手で抱えしゃがみ込みました。先生が、「逃げる」と叫びました。私たちは床をほうのように歩きながら、外に逃げました。校庭に出てからも地面が大きく揺れ、真っ直ぐに歩けません。やっと思いで校庭の端の方まで逃げ、みんな寄り添いながら地面にしゃがみ込み

ました。停電になり、怖くて泣いていた友達もいました。他の学年も昇降口や非常階段から逃げてきました。なかなか逃げられない学年もありました。校舎がぐらぐら揺れて、崩れるんじゃないかとほらはらしました。先生方が校庭から「逃げる」と叫んでいました。地震は今までにないくらい、ぐらぐらと大きく長く揺れました。近所の家



津山中1年
亀井 梨帆 さん
(当時：柳津小4年)

あの震災を
特集 忘れない

のガラスが、ガチャーンと割れ、瓦がものすごい音で、ガラガラガラガラと落ちてきました。泣いていた友達がその音にびっくりして、ますます大きな声で泣きました。私も泣きたくありません。でも、ぐっと我慢して、「大丈夫だから、大丈夫だから」と、何度も言いました。

空から雪が降ってきました。ジャンパーを着ていなかったので、寒くて体が震え、「寒いよお」と言いながら、みんなで固まっていました。その後も余震が何度も来て、校庭がぐらぐら揺れました。そのたびに、みんなの泣き声が大きくなりました。私も「これからどうなるんだろう」と思うと、涙が出てきました。

津波で北上川が逆流するかも信じられない思いで避難所に

何分かして、おじいさんが学校に迎えに来てくれました。おじいさんの顔を見て、「おじいさん、よかった」と、ほっとしました。車の中がとても暖かく感じました。

家に帰ると、家の中は、花瓶や植木鉢が倒れていたり食器が何枚も割れていたりして、めちゃめちゃになっていました。家に帰って家族に会えたのはうれしかったけれど、余震が来るたびに不安になり、家が崩れてしまうような気がしました。

おじいさんが近所の人から、「大きな

▲地震発生後に沿岸部を襲った津波の映像がリアルタイムでテレビ中継されました



津波が来るらしい。北上川が逆流するかもしれない」という話を聞いてきました。「ええつ、北上川が」。私は信じられませんでした。北上川は家のすぐそばです。ここは海から遠いのに、そんなことってあるのかなと思いました。

「どうする」「避難するか」と、おじいさんとおばあさんが話し合っていました。そして、すぐに避難することになりました。私は急いで毛布と上着を持ち、家族で町のふれあいセンターに避難しました。ふれあいセンターの中は、避難してきた人でいっぱいでした。知らない人ばかりなのかなと思ってい

たら、友達が何人かいたので、少しほっとしました。

夜ご飯は、乾パンと非常用の炊き出しご飯でした。少なかったけれど、それだけでもおいしく感じました。停電だったので、ストーブの火だけが周りを明るく照らしていました。

夜は一人一枚の毛布で寝ました。夜中に何度も、数えきれないくらい余震が来ました。そのたびに、係の人が走ってきてストーブの火を消しました。「うわあ、怖いよ」「大丈夫、大丈夫」友達3人で励まし合いながら寝ました。余震のたびに目が覚めて、夜がすごく長く感じました。外が明るくなってきたときには、「やつと朝が来た」と思いました。

家に帰ってからも不慣れた生活 電気がついて家族で喜ぶ

避難所生活は4日間続きました。4日目には避難所に隣の南三陸町の人があるということになりました。北上川ももう大丈夫だろうということ、家に帰ることになりました。南三陸町は大きな津波が来て、たくさんの方が流されたと聞いてびっくりしました。北上川も、家のそばの辺りを何十センチの津波が上っていったそうです。本当に大きな津波だったんだとあらためて思いました。

家に帰ってからも停電は続き、ろうそくの明かりで生活しました。近所の

人と炊き出しをしてご飯を食べました。お風呂にも入れなかったため、体がべとべとしました。

暗くなると茶の間に布団を敷いて、いつ地震が来ても逃げられるように服のまま寝ました。「早く余震が収まるといいんだけど」「電気がつかないかな」「しょうがない。がんばろう」。お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、兄、私、家族みんなが同じことを思い、過ごしました。

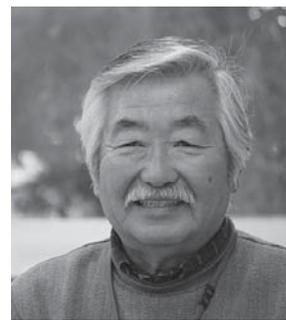
一週間ぐらいたって電気がついたとき、「やったあ」「明るいね」「テレビ、テレビ」。家族みんな大喜びでした。

大震災から数カ月が過ぎ、私の生活はすっかり元に戻りました。学校では友達と勉強したり遊んだりし、家では家族と楽しい生活を送っています。

近くの町は津波で家が流され、たくさんの方が亡くなりました。テレビで見るとき、びっくりして声が出ませんでした。何かしてあげたいと思いい、学校の人みんなで募金をしました。電気があって、水があって、普通にご飯が食べられること、家族や友達に囲まれて生活できることが、実は一番幸せなことなんだなと思いました。

被害を受けた人たちが、一日も早く今までのような暮らしに戻ってほしいと強く願っています。そして、これから私は普通に生活できることに感謝し、家族や友達を大切にしながら過ごしていきたいと思えます。

「ありがとう」に万感の思い コミュニティの底力感じる



吉田コミュニティ運営協議会
事務局長
吉田公民館館長
なおよき
菅原 直行 さん

地元施設に津波被害の 小・中学生を受け入れる

平成23年3月11日、午後2時46分、東日本大震災が発生しました。

4月14日と15日、旧善王寺小学校屋
体と平筒沼yoyou館に、南三陸

町からの二次被災者の受け入れが決
定。急ぎよ、地元の吉田コミュニティ

運営協議会の役員や行政区長会、米山
町ボランティア連絡協議会などのボラ
ンティアが招集されました。しかし、
市側の連絡体制が徹底されていなかっ
たため、地元参加者が解散後、避難者

が入所するという不手際も起きてしま
いました。

南三陸町からの避難者については、
平筒沼yoyou館に40人、旧善王
寺小体育館に80人、また旧善王寺小
学校の校舎には戸倉小学校と戸倉中
学校の児童生徒を受け入れることを確
認しました。

4月22日、吉田コミュニティ運営協
議会が管理している善王寺コミュニ
ティセンターの利用は、戸倉小学校と
戸倉中学校に限り、平日の授業での利
用を認めることにしました。仮設トイ
レの設置や施設管理の明確化など、子
どもたちの教育環境の整備を急ぎまし

原発事故の影響 放射線量を測定

福島第一原子力発電所事故の放射能汚染に対する市民の関心が高まったことから、市では簡易型放射線量測定器を購入。消防署や市内学校、社会教育施設などの空間放射線量の測定を開始しました（6月21日～）。また、市内の稲わらを県が調査した結果、暫定基準値を超える放射線セシウムが検出されました。このため、国の指導を受け市内24カ所に汚染稲わらを一時保管しました。当初、一時保管の期間は最長でも2年としていました。しかし、国の指定廃棄物最終処分場の候補地選定が遅れ、現在も一時保管の状態が続いています。



▲毎日の空間放射線量を測定

緊急役員会（コミュニティ役員、区

長会、ボランティアグループなど）を
yoyou館で開催し、今後の対応
方針などを協議しました。そして、次
のことを確認しました。「自分たちが
できる範囲のお手伝いをする」「震災
の話は聞き役に徹する。自分たちから
話題としない」を活動の核とすること
です。

あの震災を
特集 忘れない

た。受け入れ後には、被災者の方に対して春の歩け歩け大会や、グラウンドゴルフ大会への参加を通じて地元との交流を促しました。しかし、まだ落ち着かない状態のようで、参加の希望者はありませんでした。

校庭に万国旗に代わる大漁旗 久々に響く子どもたちの歓声

5月24日、地元の昔話「平筒沼ものがたり」（佐々木智さん編集）を井崎米子さんの朗読で聞いていただく機会を設けました。この話は昔、戸倉から行商に来ていた人の物語ということ、南三陸町の被災者の皆さんに好評を博しました。

6月に入り、PTA参加の授業参観などの学校の行事も通常通り開催されるようになりました。避難者の方々からは、昼食の提供などの要請が増えってきました。

戸倉小学校と戸倉中学校に関わるボランティアの方々も定着してきたので、地元コミュニティ運営協議会、東京災害ボランティア、市社会福祉協議会、米山支所などの皆さんで打ち合わせ会議を持ちながら、さまざまな要請に対処できるように役割分担を決めていきました。当吉田コミュニティ運営協議会は「自分たちができる範囲の中で速やかに対応する」ことを合言葉に活動しました。

7月2日、戸倉小学校スポーツ大

会。雲一つない青い空、万国旗に代わる大漁旗が旧善王寺小学校の校庭にはためきました。久々に響く子どもたちの歓声。善王寺地区に、こんなに人がいたのかと思われるほどのにぎわいでした。地元区長会をはじめ、各ボランティアグループが出店を担当しました。開店前から長蛇の列ができた「かき氷コーナー」を担当した吉田公民館の高橋和恵さんからは、「手が凍傷になっちゃう」とのうれしい悲鳴も上がりました。子どもたちの笑顔がはじけた一日となりました。

7月7日、七夕飾りの竹竿探し。戸倉中学校の谷山知宏教頭先生が、この震災で学校が旧善王寺小学校に移ってから、自前で新車の軽トラックを購入したとのことでした。この軽トラックが通勤や物資調達に大活躍している中、七夕飾り用の竹竿を近所から見事ゲットし、目的を達成することができました。先生方の一生懸命な姿が子どもたちにしっかり伝わっていることを確信しました。

まだいてほしい、いたい： 万感の思いで卒業生見送る

この時期からホンダのアシモ君の実演が善王寺コミュニティセンターで開かれるなど、企業や各団体、芸能人、スポーツ選手などが続々とボランティアで来校し、子どもたちに元気を与えてくれました。

11月3日、戸倉中学校の文化祭で、昼食ボランティアを実施しました。メニューはカレーライスで、どの生徒も満腹になること受け合いました。提供後、生徒たちの素晴らしい作品を鑑賞した時、絵画コーナーにきぎ付けになりました。生徒たちの、対象を良く見る姿勢に驚かされました。

平成24年2月18日、戸倉小学校・戸倉中学校の感謝の会。旧善王寺小学校にいてほしい、いたい……。さまざまな思いを胸にお別れの会が開催されました。

子どもたちからお世話になった皆さんに、また、子どもたちから頑張る力をもたらした地元の皆さんから、子どもたちへプレゼントを交換しました。「ありがとう」の言葉に万感の思いと涙、握手のぬくもりに、明日を信じられる心が大きく膨らみました。

3月16日、戸倉小学校の卒業式と卒業ライブ。旧善王寺小学校から、まさか巣立つ子どもたちを送ることがある

のかという不思議な気持ちになりました。戸倉小の麻生川敦校長先生の温かな式辞、それから先生方や力を合わせた戸倉の子どもたち、地域の皆さんと過ごしたこの1年間を思い起こしました。皆さんとわずかながらも関わったことに感謝の気持ちがいっぱいになった素晴らしい卒業式でした。

3月23日、まだまだ続く熱い絆。戸倉小学校の子どもたちが南三陸町に戻った後も、戸倉小学校の少年野球チーム「戸倉ブルーウエーブ」から、練習場所がないため、旧善王寺小学校の校庭を利用したいと申請がありました。市教育委員会に働きかけた結果、4月1日から練習が可能となりました。（平成25年10月）現在も旧善王寺小学校での練習を継続中です。

震災からの1年間、本当にコミュニティの底力を感じさせられました。まだまだ問題が山積しています。現実を見つめ、着実に進んでいこうと今、決意を新たにしています。

自主防災組織の育成 防災用品を整備

市では、自主防災組織の結成を推進、平成21年度末に全ての行政区で自主防災組織が結成されました。自主防災組織が東日本大震災で活動した際、当時不足した備品や必要だったものを整備するため、平成24年度に自主防災組織に対する補助事業を実施しました。整備した用品を災害時に活用するほか、日頃の防災訓練でも活用してもらうことが目的です。また、災害時の初動活動に生かせるよう、自主防災組織を中心とした防災訓練を実施。各地区の自主防災組織の研修会を通し、市民の防災意識のさらなる向上を目指しています。



▲大規模災害を想定した防災訓練

避難者、地域、ボランティア 新しい地域づくりの原型に

南三陸町の避難所として 廃校校舎に明かりがともる

3・11東日本大震災は、私たちに大きなショックを与えました。同時に、私たち以上に大きな被害を受けた被災地に対して何もできないジレンマも感じさせました。

地域内でも家屋の被害があったものの、人命に関わることが少ないことは幸いでした。そうした中、3月19日に旧鱒淵まずぶち小学校の体育館に明かりがともりました。RQ市民災害救援センターの皆さんが、災害地支援物資の東北本部基地としての活動を始めたのです。地域の住民は、最初「いったい何者が？」と不安の念に包まれる感じで見

守っていました。

津波で大きな被害を受けた南三陸町の中瀬地区が鱒淵地区を指定し、旧鱒淵小学校を「避難仮設宿舎」として活用を開始したのは4月4日のことです。震災の前日まで農作業や漁業など、家業に一生懸命だった人たちにとって、住む家も何もかもなくしてしまっただけで、これからの不安が募る中で避難場所「鱒淵」でした。

近隣地で親類、知人も多い中、鱒淵地区では「私たちにできることをやろう」と、その役割を話し合いました。誰かに頼まれたり行政に依頼されたりして動く、今までは違った「できることを、できることからやる」というボランティア活動が、地域活動につな

がっていった気がします。

旧鱒淵小学校に、南三陸町中瀬地区から約120人の方々がバス2台で来ました。地域あげての迎ええと、商工会や婦人会有志の方々による昼食の提供がありました。親類、知人との無事を確認し合い、再会の喜びに話が弾むひとときでした。数年前に廃校し、特に使用がなかった校舎全部に明かりがともりました。生き返った施設となり、命が吹き込まれたようでした。

今までの避難場所での食事は、炊き出しはありましたが、おにぎり中心で、この寒さの中で冷たく、インスタント食品が主であったこと、寝る場所はずし詰めし詰めの体育館、脚を伸ばすことはできず、寝返りもできず、相手の頭に足



東和町鱒淵
かんいち
小野寺 寛一 さん

が届く始末とか。特に夜のトイレは人を踏みつけないように静かに探し、高齢者が夜中に使用するには体にこたえたとの話しも聞きました。この鱒淵に来てからは温かい歓迎が身に染み、特に「温かいご飯とはっと汁をおいしくいただいた」という声が聞かれました。

あの震災を
特集 忘れない

4カ月月に及ぶ避難生活 「鱒淵の心」でおもてなし

避難者が鱒淵の道路をマスク姿で何もすることなくブラブラと歩く姿は、はたから見ると異様な雰囲気です。それは日増しに増えていきました。「動かないと足腰が駄目になるからね」との散歩でした。

そのような中、地域の人たちが「声掛けとあいさつ」運動の奨励に努めたのも鱒淵の心のもてなしでした。畑、田んぼで出会った時の朝夕のあいさつと「大変でしたね」との思いやりの一言は、地域住民と避難者の絆を一層強めることとなり、気やすく話し合う雰囲気づくりにもなりました。

「ホタル会館（及甚と源氏ボタル交流館）前の農園は復興支援農園として活用してください」と中瀬区長に話しました。季節は春野菜の種まきと植えつけ時期。身体を動かし収穫の喜びにつなげようと活動に入ることになりました。種や苗がないので奔走し、多くの協力をいただきました。作付品目はジャガイモ、ナス、トマト、ピーマン、ネギ、枝豆でした。

「仮設住宅ができて帰る時には、お土産に持って行きましょう」との合言葉で農作業にも精が出ていたようです。共同作業は災害を忘れる時間でもあったことと思います。

この農園活動は避難者のふれあい交

流と、心の健康づくりにもなったようです。朝の散歩は、学校からこの場所までの約1.5キロで、ちょうどよい散歩コース。野菜を自分たちが作るのと力の入れようも違います。毎日、朝夕に作物の生育状況を見ながら歩くことは、励みにもなりました。

そして、仮設住宅が完成。4カ月間の避難生活を終えて、8月3日にはいよいよ「お別れ会」が開かれることになりました。県道には「サヨナラ、南三陸の復興を」、学校にも「絆を大切に」という看板が設置されました。地域住民のアイデアです。大勢の地域住民の方々が参加して別れを惜しみ、一日も早い復興を励ます会にもなりました。

ホタルの神秘的な光に 亡き人の魂重なる

中瀬地区は地区全体で避難してきたので、区長を中心にまとまりがありました。毎日、朝夕に開かれる班長会議ミーティングでの情報の共有は、地区の力だと感じました。校舎隣の体育館に設置されたRQボランティアの東北本部の方々の支援と交流も大きな力になりました。

わが家は、ホタル会館の近くにありますが。「自分に何ができるか？」できることをやろう」と、自宅の長屋を開放し「南三陸サロン」と名付け、休憩場所として提供しました。夜には、そこが避難者とボランティア、地域の

応援協定の支援 さらなる連携強化

東日本大震災では、友好姉妹都市協定や災害時応援協定を締結していた他自治体、企業などから食糧や支援物資を優先かつ迅速に提供を受け、災害情報発信などの協力を得ることができました。これは、災害時応援協定の有益性が十分に実証されたと言えます。しかし、当時の課題として互いの連絡体制が整っておらず、応援内容の伝達が滞る状況も発生しました。市は、平成25年9月までに67団体との災害時応援協定を締結しています。今後の災害に備えて各団体と情報交換会や会議を重ね、相互の連絡体制の強化を図っていく計画です。

大震災に係る災害応援活動に関する協定



▲災害時応援協定の連携を一層強化

東和・鱒淵地区と南三陸町・中瀬行政区との交流は、避難住民が仮設住宅に移った後も続いています



方々との話し合い、交流の場となりました。

夜のミーティング時に鱒淵の情報を提供し、避難者のお世話をさせていただきました。「ニュー鱒淵ふるさとだより」も発行し、交流情報を伝え合いました。行政職員や地域から選出された支援員の避難者に対する心遣いや援助は、皆に感謝されていました。芸能人や各方面からの慰問訪問も多くありました。地域の人にも声がかかり、一緒に参加させていただいたことも有意義なつながり「絆」となりました。

地域の祭りにも案内を出し、積極的に参加していただきました。4月の春季鱒淵華足寺大祭には、避難された方からも踊りやカラオケの参加がありました。祭りが癒やしの場にもなったのではないのでしょうか。この華足寺に鱒淵小学校に避難された方々の名前を書いた復興祈願の掲額をして、この惨事の教訓と明日への復興の記録として、後世への道しるべとしました。

鱒淵は毎年6月末には国の天然記念物の源氏ホタルが飛翔し、観賞客でにぎわいます。震災のあった年も地域とボランティアが協力し、ほたる祭りが行われました。

夜になると、避難された方々は、夕食もほどほどに毎晩ホタル観賞に行く人が多くいました。あの暗闇で光る淡い神秘的な光が、震災で亡くなった魂に見えたという方もいて、心を打たれました。ホタルは光り輝き、生きることの大切さも教えていたようでした。南三陸町復興の明日への光として、キラリと光っていました。

避難者とボランティアで「鱒淵ふるさと会」を結成

あれから、3年近くが過ぎようとしている今、南三陸町から避難された方々との交流は、強い絆として続いていることは意義深いものです。新しい地域づくりは風土づくりとも言われ、多くのふれあい交流から生まれます。

「みやぎ鎮魂の日」に一斉黙祷を実施

「みやぎ鎮魂の日を定める条例」が平成25年4月1日に施行されました。本年3月11日に初めての「みやぎ鎮魂の日」を迎えます。本市でも震災発生時刻の3月11日、午後2時46分に防災行政無線のサイレン吹鳴を合図に一斉黙祷を捧げます。東日本大震災で亡くなった方々を悼し、震災の記憶を風化させることなく後世に伝えていくために実施するものです。市民皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

【実施日時】「みやぎ鎮魂の日」3月11日(火)午後2時46分

【内容】サイレンを合図に一斉黙祷を実施



▲震災発生時刻に合わせ、防災行政無線のサイレンを鳴らします



避難された方とボランティア、そして地域の人たちとの交流は続いています。避難された方との関係で特筆すべきは、何と言ってもRQボランティアです。鱒淵に24カ国から約4万5千人が来て活動したことが、避難者、地域、ボランティアによる新しい地域、風土づくりの原型につながっていくことを期待しています。

避難者とボランティアなどで、「ニュー鱒淵ふるさと会」も発足しました。この会は、鱒淵を好きな人を中心にしたふるさと運動活動団体です。気張らずに情報交換し、今後はイベントも計画しています。地域のお祭り「華足寺大祭」への招待はその後も毎年行われ、復興祈願と同時に御膳あげ行事や演芸への協力も一緒に行う仲となりました。

ホタルの季節にも招待し、一緒にホタル見学と話し合い交流が行われてい

ます。ホタル会館前の支援農園では、地域のボランティアの方々が、生産・収穫した農産物を仮設住宅に届けて喜ばれるなど、一層の絆を強めています。今、世界中のみんなの願いは、一日も早い震災復興です。この自然災害から多くのことを学び、助け支えること、記録で後世に伝えることなど、各種の防災に一層の意識を高めていく必要を感じています。

あの震災を
特集 忘れない

はるかかのひまわり

「ほら、種をもらってきたよ」。夏休みの前に、お母さんがひまわりの種をもらってきました。小さい種だったので、お母さんが最初にバックに植えて、苗が少し大きくなってから、裏の畑やハウスの周りにお母さんと一緒に植え替えをしました。

このひまわりの種は、「はるかかのひまわり」といって、阪神大震災の時にはるかちゃんという女の子の家のあつたところに咲いたひまわりの種だそうです。3月11日の地震で大きな被害があったところに、早く元の元気な町になるようにと、願いが込められて送られてきたんだと、お母さんが教えてくれました。

ぼくは、阪神大震災のことは知りません。でも、東日本大震災の時に起きた大地震や津波のことは、テレビで見たり、新聞の写真で見たりして知っています。大きな津波が来て、建物や車を飲み込んでいく様子は、この前もテレビでやっていました。それを一緒に見ていたお母さんは、「ちゃんと見て、きちんと覚えておくんだよ」と言っています。

3月の地震のときは、学校にいて、校庭で遊んでいるときでした。急にぐらぐらしたので、ぼくはとてもびびくりしました。保健のかおり先生が校舎

から出てきて、ぼくたちを集めてくれたので、ちょっと安心しました。

家に帰ると、テレビも電気もつきません。停電でした。ごはんはガスで炊きました。明るいうちに食べて茶わんを洗わないといけないので、お母さんが毎日、「早く食べてね」と言っていました。ぼくの家では電気が止まっただけで、水も出たし、お風呂もまきで炊いていたので、毎日入れました。でも、横山小学校に避難していた南三陸町の人たちは、何日もお風呂に入れませんでした。夜も、広い体育館では寒くて眠れなかったと思います。その人たちと比べたら、ぼくの所は良かったんだなあと思いました。

ぼくのお父さんの妹は、気仙沼に住んでいて、気仙沼向洋高校というところで保健の先生をしています。地震のとき学校にいて、津波が来るというので大事な書類や薬を校舎の3階に上げたそうです。でも、津波は3階も飲み込み、みんなで屋上に逃げたと言っていました。

その日は、雪が降っていて寒い日だったけど、みんなで声を掛け合い、励まし合いながら、一晩屋上で過ごし、避難所に行けたのは次の日のお昼だったそうです。それも、まだ水が引いていないところを泥だらけになりながら、歩いて行ったと聞いたとき、ぼくはとてもびびくりしました。寒いのに水の中を歩くなんて、ぼくにはきつと



横山小4年
ひかる
佐藤 輝 君
(当時：横山小1年)

●東日本大震災の記録

市では現在、東日本大震災の記録誌を編集しています。記録誌は、市内の被害状況や震災対応、課題検証やその後の取り組み、そして、震災に向き合った人たちの体験談などで構成。本特集では、寄せられた体験談の中から一部を調整し紹介しています。記録誌は3月中に本編とダイジェスト版を発行。市公共機関や学校、関係機関などに配布し、今後の防災行政および防災教育に活用していきます。

震災という苦難を乗り越え 新しい明日に向かって 大きな花を

できないと思います。気仙沼向洋高校は、海のすぐそばにあるので車も流されてしまいました。お父さんの妹が無事だったので、みんなで喜びました。

夏休みのある日、ひまわりの花が咲いているのに気が付きました。お母さんと植えてから、雨が降らない日はぼくが水をかけてあげました。

「早く大きくなって、大きなきれいなお日さまのような花が咲きますように」と、お願いしながら水をあげました。今では、ぼくの身長を追い越しました。毎日、お日さまに向かって、ここにこしながら咲いています。

ぼくは、このひまわりの種を気仙沼のお父さんの妹にもあげて、家の周りに植えてもらいます。気仙沼向洋高校のみんなにもあげて、気仙沼がひまわりでいっぱいになってほしいです。そして、前のような元気な町になってほしいと思います。

地震や津波で被害があったところが早く元のように戻るように、ぼくもこのひまわりをずっとずっと咲かせていきたいです。

あの震災を
特集 忘れない 終

26年ぶりの甲子園出場を決め喜ぶ東陵ナイン
部員65人のうち本市出身選手が10人います
(写真提供：気仙沼市役所・広報広聴係)



登米出身



及川 宥人 (2年・中田中) 阿部 貴弥 (2年・中田中) 佐藤 剛也 (2年・東和中) 工藤 翔 (3年・東和中)

感謝の気持ちで
夢舞台に臨んで



南方中野球部コーチ
芦名 徳彦さん
(南方町・細川)

南方中の卒業生3人が甲子園に行きます。本当にうれしいですね。野球を続けられるのも甲子園に行けるのも周囲の支えがあってこそ。子どもたちには感謝の気持ちを持って、甲子園という夢舞台に臨んでほしいと思います。東陵高校野球部の千葉亮輔監督は野球部の同級生。震災の津波で大きな被害を受けた気仙沼の人たちを元気づけられるような姿を見せてほしいですね。

気仙沼市にある私立・東陵高校が、3月21日から阪神甲子園球場(兵庫県西宮市)で開催される第86回選抜高等学校野球大会に出場することが決まりました。メンバーのうち、捕手の伊東拓人君(3年・南方中出身)と遊撃手の工藤翔君(3年・東和中出身)はチームの主力としてチームをけん引。同校26年ぶりとなる2度目の甲子園出場に大きく貢献しました。

東陵高校は昨年秋の県大会で準優勝。10月12日から岩手で開催された東北大会では、久慈工業(岩手)、角館(秋田)、青森山田(青森)を破り決勝に進出しました。

決勝では八戸学院光星学院(青森)に敗れたものの準優勝と躍進。今年1月24日に大阪市内で開かれた出場32校(一般選考29、21世紀枠3)を決める選考委員会で、東北から八戸学院光星とともに一般選考枠で選ばれ「春のセンバツ」甲子園出場を決めました。

同校野球部には、主力の伊東、工藤の両選手をはじめ、本市出身の選手が10人在籍。仲間とともに甲子園出場という大きな夢をかなえました。

全国球児の憧れ、夢の甲子園という晴れ舞台に立つ選手たちの活躍が期待されます。

KAKERU KUDO
工藤 翔 選手
(3年・東和中出身)



PROFILE くどう・かける

177cm 70kg / 右投左打
東和町米川2出身。米川小1年からスポーツ少年団「米川ジャイアンツ」で野球を始め、捕手、投手、遊撃手。東和中では仙塩東シニア(多賀城市)に在籍。東陵高では1年秋からベンチ入りし2年夏から正遊撃手に。新チームでの成績は29試合で打率.350。家族は両親(裕正さん・一子さん)と姉(早紀さん)、兄(将理さん)

本市出身
選手10人

仲間とともに夢実現

東陵高校(気仙沼)センバツ甲子園(3月21日)出場決定

進出しました。

TAKUTO ITO
伊東 拓人 選手
 (3年・南方中出身)



PROFILE いたう・たくと

172cm 75kg / 右投右打
 南方町山成出身。南方小3年からスポーツ少年団「南方小バリキーズ」で野球を始め、主に中堅手と三塁手。南方中では中堅手と捕手で、2年時に県中総体ベスト4に貢献。県選抜では外野手。東陵高では1年秋にベンチ入りし2年秋から正捕手に。新チームでの成績は29試合で打率.337。家族は両親(健悦さん・梢さん)と祖母(愛子さん)



佐々木 広 (2年・津山中) 阿部 恵人 (3年・津山中) 日野 翔 (3年・津山中) 小野寺 直紀 (2年・南方中) 菅原 健太 (3年・南方中) 伊東 拓人 (3年・南方中)

選手一覽

※学年は新学年

**家族全員の夢かなう
自分らしいプレーを**

工藤翔君の母・一子さん
 (東和町・米川)

東北大会で準優勝したときから甲子園出場が決まるまでは、毎日が本当にドキドキでした。出場が決まると、地域の方々をはじめ本当に多くの人からお祝いの声を掛けていただき感謝しています。

小学校入学前からキャッチャー用具を欲しがらぐらい野球好きの子。野球に関しては「できない」という言葉は

絶対言わない子でした。二つ上の兄(将理さん)の背中を追うように父親(裕正さん)がコーチを務めるスポーツ少年団で野球を始め、中学、高校も兄と同じチームに。甲子園出場は家族全員の夢でした。勝ち負けは二の次。自分らしいプレーをしてほしいですね。



工藤さん家族 (右が一子さん、隣が裕正さん)

**甲子園へ人一倍の思い
家族みんなが楽しみに**

伊東拓人君の母・梢さん
 (南方町・山成)

甲子園出場が決まるまでは、本人以上に気が気ではありませんでした。出場決定の知らせは、高校にいた夫(健悦さん)が連絡をくれました。本当に夢のようです。



伊東さん家族 (右から健悦さん、梢さん、愛子さん)

甲子園への憧れも人一倍強かったようです。高校入学前の春に、センバツの21世紀枠で出場する石巻工業の応援バスに乗り、一人で甲子園大会を見にいったほどです。現在は甲子園出発に向けて保護者会でも準備に追われていますが、家族みんなで応援に行くのを楽しみにしています。

母の思い

— Message —

より市民の生活に役立つ情報を

市民生活に必要な情報が 目の届きにくい所に掲載

●（平成25年）12月21日号の「広報とめ」で、年末年始の業務の休業が掲載されていたが、あまりにも小さく見落としてしまいそうだった。市民の生活に必要と思う情報が、市民の目の届きにくいところに掲載しては、せっかく載せても意味がないと思う。

特にごみ収集業務に関しては、年間の予定を出しているからだと思うが、昨年、12月31日の業務休業が分からずにごみを出した家庭がずいぶんあった。そのままごみが置いてあって、衛生上よくないと思う。

市民は曜日でごみの収集日を覚えている。その感覚でごみを出して大丈夫だと思っっているのに、休業日をしつかり目に付く所に掲載しないと、休業日にもごみを出すという

ことになると思う。

●お知らせ記事などで文字を大きくしてもよいのではないか。全体的に文字が大きくなれば、さらに読みやすくなると思う。

●市の出来事記事（平成26年1月1日号なら6〜7ページ）は横書きの方が見やすいと思う。

●今後、市への合併交付金の削減も予定されていることから、一般企業と同じように、4カ月に一度は市の予算執行状況をバランスシートで発表してほしい。市の予算の確保、執行は大きな問題だ。

●ページ数および内容については、年間を通してよく内容を精査し、掲載していると思う。また、広報紙作製予算の軽減に企業広告を充てることも良いアイデア。今後も市内各企業・事

平成25年度の市政モニターの皆さんに、

市広報紙「広報とめ」に対する

意見・要望などをお聞きしました。

市では、こうした意見・要望を参考に

市民に親しまれ、そして役に立つ

広報紙づくりに今後も努めていきます。

業所に働き掛け、予算削減に努めてほしい。

1月1日号の年頭あいさつを1ページにまとめて、他の記事を掲載してはと感じる。また、イベント、組み写真（例「おいとこ記事」）、ときめき人など、1人ではなく2人（男1、女1）ぐらいにするなど、紙面を有効活用しては？

●市で行われたイベントなどが多く記載され大変素晴らしいが、その記事を見て自分も「行けばよかった」と思うことがよくある。最初か最後のページに定期化するなど、翌月のイベント予定をもっと大きく

取り上げてほしい。

市誕生から10年を顧みる

シリーズがあってもよい

●登米市誕生から10年ということで、シリーズ（数回）で顧みることもしよいのではないかと。教育や福祉、基幹産業である農業や商工業分野など、少子高齢化が加速している現状からも、この先への参考になるのではないかと。

●冠婚葬祭に関する情報、例えば習慣やしきたりの違い、ご祝儀や香典、出産祝い、法名代、入院した時の見舞金など、金額の違いなどを広報で

取り扱ってみてはどうか。

●夢や希望にチャレンジしていること、これからしていきたいことなど、老若男女問わず、紹介していくコーナーを設けてはどうか。

●「広報とめ」に高齢者のコーナーを。「広報とめ（平成25年）10月1日号」で「登米市の長者（百歳以上）」と「登米市の高齢者率」を見て、高齢化が確実に急速に進んでいると実感した。

そこで「広報とめ」に高齢者のコーナー、例えば「市民の広場」の「まちの若い衆」

広報とめ

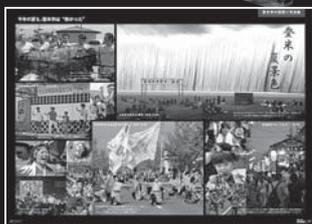
全国広報コンクールに推薦

日本広報協会が主催する全国広報コンクールに、市広報紙「広報とめ」が県代表として推薦されることになりました。同コンクールは、平成25年中に発行された自治体広報紙などを対象に実施されているものです。

今回、全国広報コンクールに推薦されるのは「広報とめ(平成25年)9月1日号」で、広報紙(市部)の部と写真(組み写真)の部(30~31ページ)の2部門です。同部門での推薦は2年連続となります。

広報紙の部の審査評では、いじめ問題に取り組んだ特集が高く評価されたほか、「企画、文章、デザイン、レイアウト、全てのバランスが素晴らしい」などの評価を得ました。また、写真の部では、「夏祭りのさまざまな場面を人々の生き生きとした表情で表現していて良い」などの評価を得ました。

全国広報コンクールの審査は、各都道府県から推薦された広報紙、広報写真、ウェブサイトなど部門ごとに行われます。昨年は「広報とめ(平成24年)12月1日号」が、広報紙(市部)の部で全体の3位に当たる入選2席を受賞しています。



広報とめ9月1日号は広報紙と広報写真(組み)で全国広報コンクールに推薦

● 基本的には現在のままでよいと思う。ただ、21日号の「ムシ菌のない子」は虫歯予防の啓発に役立つと思っているが、それに替わって乳幼児の健康についての情報を発信しはどうか。

● 読みやすく、分かりやすく掲載されていると思う。特に「ムシ菌のない子」のかわい笑顔、この笑顔を支えているのは家族なのだと思うとホッとします。

● ある程度仕方ないと思うが、どうしても「市からのお知らせ」的なものが多く、一方通行になりやすい。市民が広報紙を読んで、考え、行動するといった相互通行できるような内容にすれば、より充実した広報紙になるのでは。

● 表紙の写真で目を引き付けていると思う。中を開いても写真やイラストが随所に入り、内容が理解しやすい。編集する皆さんの努力で文章もより分かりやすくなっていると思う。

● 昨年表紙の写真が素晴らしいと感じていた。中でも(平成25年)4月号の卒業式の生徒の目線、9月号のトウモロコシを食べる子どもたちのほっぺのつぶがよいポイント。11月号の新米を食べる子ども、

● 他市町村と比較して、登米市の広報紙は内容も充実しており、情報ツールの一つとして重要視できる。個人的には

● 広報紙は年代によっては、ホームページ、FMなどよりも目で確かめる大切な役割を担っていると思う。市政のこゝろ、各町単位の活動など、いろいろな暮らしの情報がいろいろも助かる。ただし、全ての市民が読んでいるのか? 広報紙を全市民に活用してもらえたらと思う。さらに役立つ広報紙をお願いする。

● 広報紙は年代によっては、ホームページ、FMなどよりも目で確かめる大切な役割を担っていると思う。市政のこゝろ、各町単位の活動など、いろいろな暮らしの情報がいろいろも助かる。ただし、全ての市民が読んでいるのか? 広報紙を全市民に活用してもらえたらと思う。さらに役立つ広報紙をお願いする。

● 他市町村と比較して、登米市の広報紙は内容も充実しており、情報ツールの一つとして重要視できる。個人的には

● 広報紙は年代によっては、ホームページ、FMなどよりも目で確かめる大切な役割を担っていると思う。市政のこゝろ、各町単位の活動など、いろいろな暮らしの情報がいろいろも助かる。ただし、全ての市民が読んでいるのか? 広報紙を全市民に活用してもらえたらと思う。さらに役立つ広報紙をお願いする。

市政モニター

市政に市民の意見や要望を反映させるために設置。毎年、公募と各総合支所推薦による20人を市長が委嘱しています(平成25年度は男女各10人)。任期は1年。市政に対する建設的な意見や要望などを随時提出するほか、モニター会議(年2回程度)に出席し、市長と意見交換します。



▲ 市政モニター会議

登米精巧の新工場完成

トヨタ自動車東日本に供給



本工場敷地内に完成した登米精巧の新工場。地元企業として、自動車産業への参入を果たしました

迫町新田にある(株)登米精巧(後藤康治代表取締役)が本社敷地内に自動車部品専用の新工場を建設。1月27日、現地



落成式には藤井敏和副市長(左から2人目)も出席。関係者とともに完成を祝いました

で県や市、トヨタ関係者らが出席し落成式が行われました。新工場は延べ床面積約1500平方メートル。製造した部品はトヨタ自動車東日本の本社工場(大衡村)や岩手工場(金ヶ崎町)に供給します。トヨタ自動車グループの主要サプライヤー企業からの支援を受け、プレス加工から溶接、表面処理までの一貫生産ラインを整え、自動車産業への参入を果たしました。登米精巧は平成元年に設立。主に産業機械や精密部品などを手掛けてきました。

市産ナラ材の学童机

登米中でモニタリング

市の森林資源である広葉樹を有効活用しようと、新しい木製品の開発を進めてきた「登米地域材活用新製品開発検討委員会(会長・芳賀稔登米町森林組合代表理事)」が、天板に地域産のナラ材を用いた学童机を制作し、登米中学校に提供しました。提供された学童机(椅子含む)は125人分。新年度から3年間、使用感や耐久性などのモニタリング調査を行い、製品開発に反映させることとなります。1月21日に同校で行われた引き渡し式では芳賀代表理事が「たくさんの森のいのちが関わっている、世界に一つだけの机を大事に使用してください」と述べました。



真新しい机に気持ちを新たにしている登米中生。「触り心地がつかる」「勉強がはかどりそう」などと話していました

フットサルで県優勝

新田のLEGENDS

迫町新田のフットサルクラブ「LEGENDS(レジェンズ)」が、12月8日に石巻市で開催された第4回県フットサルフェスティバル大会(県サッカー協会主催)で優勝しました。大会は年齢や男女別といった6種目で争われ、LEGENDSはU-10(小学3・4年)とU-12(同5・6年)の2種目を制しました。監督の千葉勇さん(迫町駒林)は「まさか2種目で優勝できる」と喜んでいます。LEGENDSのメンバーは、新田、北方、佐沼小の1年生から6年生までの男女24人。毎週2回、新田小と新田公民館で練習に励んでいます。



結成3年目にして初の県大会優勝を果たしたLEGENDS(後列左が監督の千葉さん)

生物多様性を考える

自然の創造から地域づくりへ

地域の自然とそこに生息する希少な生き物たちをどう守っていくか考えよう。市では、生物多様性シンポジウム「いのちにぎわう里づくり」を1月25日に開きました。会場の迫公民館には市内外から約120人が参加しました。

シンポジウムでは、岩手県立大学名誉教授の由井正敏まさとしさんが「野鳥と森林の危機〜小鳥やイヌワシとの共存〜」、NPO法人里の自然文化共育研究所理事の菊池良磨りょうまさんが「生き物にぎわう森里川海づくりをめざして」と題しそれぞれ講演。その後、会場の参加者と「自然に学ぶ未来へのヒント」と題し、フリーデイスカッションを行いました。

生物多様性の保全とその利用に向けた課題と今後の取り組みなどについて、参加者が意見を出し合いました。



全国表彰の星さん(左から2人目)。(右が正俊さん・あゆみさん夫婦と孫の翔太君。左が妻の万利恵さん)

農業経営で全国表彰

星正喜さん、協議会会長賞

平成25年度の全国優良経営体表彰(全国担い手育成総合支援協議会主催)で、本市の星正喜さん(迫町大浦)が「全国担い手育成総合支援協議会会長賞(個人経営体部門)」を受賞しました。表彰された3部門35の個人・法人のうち、県内からの受賞は星さんだけです。

星さんは、繁殖牛と水稻の複合経営。規模拡大による低コスト化や合理化に取り組み、本人夫婦と息子夫婦(正俊さん・あゆみさん)で役割分担を明確化したり休日制を導入したりしています。また、農業研修生を長年受け入れるなど、地域の後継者育成にも貢献してきました。

「カール」に油麩井味

2月18日から東北で発売



カールの「とよま油麩井味」の外袋と内袋の図柄には、旧登米高等尋常小学校前にカールおじさんがいます

(株)明治が発売しているお菓子のロングセラー商品「カール」に、ご当地味として本市の「とよま油麩井味」が登場。



「ぜひ食べてみてください」。監修したご当地カールを手に入れた「とよま油麩の会」のメンバー

2月18日から東北6県のスーパーやコンビニ、道の駅などで発売されています。

カールの「とよま油麩井味」はメーカーから打診を受けた「とよま油麩井の会(海老名康和会長)」が監修。味づくりやパッケージデザインに協力しました。「メーカーも自信作といっている今回の新商品。ぜひ食べてみてください」と笑顔で話す海老名会長。ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」で全国的な認知度も高い油麩井の、さらなる人気アップが期待できそうです。

火災から尊い生命を守ろう

平成26年春季火災予防運動が全国一斉に実施されます。市消防本部・市消防署では、次の4項目を重点目標に掲げ、火災予防運動を実施します。

- ① 住宅防火対策の推進
- ② 林野火災予防対策の推進
- ③ 特定防火対象物などにおける防火安全対策の徹底
- ④ 車両火災に対する防火安全対策の徹底

平成25年市内の火災件数は60件

皆さんは、火災の怖さを考えたことがありますか。

市内では、平成25年の1年間で60件の火災が発生しました。年末には3件の建物火災が連続発生し、4人もの尊い命が奪われました。

火災から命を守るために、家庭に潜む危険を事前に発見し、火災を未然に防ぎましょう。

●調理中の火災に気をつけま

しよう

① こんろから離れる際は必ず火を消しましょう。

② こんろの周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

③ 換気扇や壁、魚グレルなどは定期的に清掃をしましょう。

●寝たばこは絶対にやめましょう

① 灰皿に吸殻をためずに、定期的に捨てるようにしましょう。

② たばこは、布団やベッドの上では絶対に吸わないようにしましょう。

③ 吸殻は、完全に火が消えていることを確認してから捨てましょう。

●火災では早く気付くことが最重要

今回の火災で焼死者が出た原因は、火災発生に気づくのが遅れ、煙を多量に吸い込み一酸化炭素中毒になったためと考えられます。また、調査の結果、焼死者が出た3件とも住宅用火災警報器を設置し

ていないことが分かりました。死傷者もなくすためには、火災発生



▲住宅用火災警報器

にいち早く気付くことが重要です。

●今、すぐにでもできること

火災から大切な家族の命を守るため、住宅用火災警報器を適切(各寝室、台所、階段の上)に設置しましょう。

【問い合わせ】市消防本部予防課

☎0220(22)1900

普通救命講習会受講者を募集

【日時】3月16日(日)午前9時～正午

【場所】消防防災センター

【定員】30人(先着順)

【申し込み期限】3月10日(月)まで

【申し込み方法】消防署・各出張所に備え付けてある受講申込書に必要事項を記入の上、直接提出または電話で申し込みください。

【問い合わせ】消防署救急係 ☎0220(22)2119



市民歌の歌詞募集期間を延長します

市では、登米市市民歌を制定するため、歌詞を募集していました。その中で、募集期間の延長を希望する声が多く寄せられました。そこで、より多くの皆さんにご応募をいただくため、募集期間をさらに1カ月延長することにしました。

皆さんからのご応募をお待ちしています。

【応募期間】平成26年3月31日(月)午後5時必着(郵送の場合は当日消印有効)

【応募方法】指定の応募用紙に記入の上、企画部企画政策課(市役所迫庁舎2階)または各総合支所市民課(地域係)まで持参するか、企画部企画政策課まで郵送か電子メールで提出してください。指定の応募用紙は上記担当窓口を設置しています。また、市ホームページからも入手できます。

【賞金】最優秀賞1点10万円、優秀賞3点各3万円

【問い合わせ】企画部企画政策課「登米市市民歌の歌詞募集係」〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1 ☎0220(22)2147 ✉kikakuseisaku@city.tome.miyagi.jp

◆市外で被災された人対象◆

災害公営住宅入居者を募集

市では、東日本大震災により市内で被災した人に加え、市外で被災して本市へ避難、定住を希望する人を対象に、災害公営住宅への入居者を募集します。

【申し込みができる人】市内または市外で、東日本大震災で住宅を失い、自力での住宅確保が困難で、現在、仮設住宅または「みなし仮設」などにお住まいの人。(※り災証明書の提出が必要となります)

なお、他市町村で建設する災害公営住宅、または集団移転事業などに申し込みをしている場合は申請できません。詳しい内容は担当課までご連絡いたします。

【申し込み受付期間】3月3日(月)～3月31日(月)

【入居予定日】第1次建設分(戸建住宅)平成26年6月より、完成した住宅から順次

【問い合わせ】建設部住宅都市整備課(住宅管理係) ☎0220(34)2316

3月は自殺対策強化月間です。 支え合おう 心といのち



私たちができること・・・

まずは、声をかけ合うことから始めてみませんか？

気づき

家族や仲間の変化に
気づいて、声をかける

傾聴

本人の気持ちを
尊重し、耳を傾ける

つなぎ

早めに専門家に相談
するよう促す

見守り

温かく寄り添いなが
ら、じっくりと見守る

ひとりで悩まずに、ご相談ください。

♥登米いのちホットテレホン（24時間受付）

☎0120(870)108

♥登米市多重債務者無料法律相談

（予約先）登米市消費生活相談窓口

☎0220(34)2308

♥登米安心サポートローン

多重債務状態に陥っている人などを救済するため、
市が提携した金融機関で融資します。

（申し込み）登米市多重債務者法律相談で相談の上、
必要な人にご紹介します。

♥こころの相談

広報とめ21日号をご覧ください。

♥心の元気相談室

毎週月曜日・金曜日 午前10時～午後5時

（場所）登米市民病院 ※予約制・無料

（予約・問い合わせ）各総合支所市民課または

市民生活部健康推進課 ☎0220(58)2116

【全国の取り組み】

♥全国一斉こころの健康相談統一ダイヤル

☎0570(064)556

午前8時30分～午後5時15分（土日除く）

♥よりそいホットライン 24時間受付

☎0120(279)226

ガイダンスで専門的な対応も選べます（外国語含む）

【問い合わせ】市民生活部健康推進課 ☎0220(58)2116

STOP! 振り込め詐欺

振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺の被害が激増しています。平成25年中の被害は全国では400億円を超え、県内でも5億円を優に超えています。

このような状況に歯止めをかけるため、警察では金融機関、コンビニエンスストア、宅配業者などに対し、利用者へ積極的に声掛けし、詐欺が疑われる、あるいはその可能性が否定できない場合は、警察に通報するよう要請しています。

振り込め詐欺被害防止のための取り組みについて、ご理解とご協力をお願いします。

【問い合わせ】

▶佐沼警察署 ☎0220(22)2121

▶登米警察署 ☎0220(52)2121



ひとつでも当てはまれば「詐欺」です。

- 送金を息子や孫から電話で頼まれた、急がないと息子や孫が困る
- 息子や孫から「電話番号が変わった」と連絡があった
※変更前の電話番号にかけてみましょう
- 息子や孫から「風邪を引いた」「へんとう腺が腫れている」と言われた
- 息子や孫がバッグ(鞆)をなくしたと言っている
- 息子やその代理人が家に来るので現金を渡すつもりだ
- 息子から「東京駅など〇〇に来て手渡して」と言われている
- 振込先は知らない人の口座である
- ゆうパック、レターパックで送金するよう言われている
※ゆうパックやレターパックでは現金は送付できません
- 宅配で送金するよう言われている
※宅配業者には、現金の配送は断られます
- 株や社債、金、外国通貨の取り引きで「必ず儲かる」と勧誘された
- 自宅に勧誘パンフレットが届き、電話も来た
- 「立て替えて」「名前を貸して」「後で返す」と言われた
- 宝くじやギャンブルで「必ず当たる、勝てる」と言われた
※必ず儲かる話などありません
- 声掛けされたら「リフォーム代」と答えるよう教えられた

福島第一原子力発電所事故に伴う市内放射線の測定結果

市では、市民の安全・安心を確保するため、学校や生活環境などで空間放射線の測定をしましたので、その結果をお知らせします。

空間放射線量の測定結果（幼稚園・小中学校・社会教育施設など）

①測定方法／地上1m（幼稚園・小学校：地上50cm） ②測定機器：簡易測定器 ③単位：マイクロシーベルト毎時（1時間当りの放射線量）

町域	測定場所	測定日	天気	測定値	備考	町域	測定場所	測定日	天気	測定値	備考
迫	旧森小学校	2月17日	晴れ	0.06		中田	諏訪公園	2月5日	雪	0.06	
	森幼稚園	2月17日	晴れ	0.04			宝江ふれあいセンター	2月5日	晴れ	0.06	
	佐沼小学校	2月17日	晴れ	0.06			浅水ふれあいセンター	2月12日	曇り	0.05	
	佐沼幼稚園	2月17日	晴れ	0.05			中田海洋センター	2月12日	積雪	—	
	佐沼中学校	2月17日	雪	0.07			石森ふれあいセンター	2月12日	曇り	0.05	
	東佐沼幼稚園	2月17日	晴れ	0.06			中田生涯学習センター	2月12日	曇り	0.06	
	北方小学校	2月17日	雪	0.05			石ノ森章太郎ふるさと記念館	2月12日	曇り	0.08	
	北方幼稚園	2月17日	雪	0.06			中田総合体育館	2月5日	晴れ	0.06	室内
	新田小学校・新田中学校	2月17日	晴れ	0.05			豊里幼稚園	2月13日	晴れ	0.06	
	新田幼稚園	2月17日	晴れ	0.05			豊里小・中学校	2月13日	晴れ	0.07	
登米	歴史博物館	2月10日	晴れ	0.04		豊里公民館	2月13日	晴れ	0.05		
	迫公民館	2月10日	曇り	0.04		豊里多目的広場	2月13日	晴れ	0.04		
	市民プール	2月10日	晴れ	0.04		平筒沼農村文化自然学習館	2月13日	晴れ	0.06		
	視聴覚センター	2月10日	晴れ	0.04		豊里運動公園	2月6日	晴れ	0.07		
	光ヶ丘球場	2月10日	晴れ	0.04		米山東幼稚園	2月14日	曇り	0.06		
	梅ノ木グリーンパーク	2月10日	晴れ	0.07		米山東小学校	2月14日	曇り	0.05		
	大東公園	2月17日	晴れ	0.04		米岡小学校	2月14日	曇り	0.05		
	迫図書館	2月17日	晴れ	0.04		米山中学校	2月14日	曇り	0.05		
	迫海洋センター	2月17日	晴れ	0.05		中津山小学校	2月14日	曇り	0.05		
	新田総合運動場	2月17日	晴れ	0.04		米山西幼稚園	2月14日	曇り	0.05		
登米	迫武道館	2月17日	雪	0.05		善王寺コミュニティセンター	2月14日	曇り	0.05		
	登米幼稚園	2月4日	曇り	0.05		吉田公民館	2月14日	曇り	0.04		
	登米小学校	2月4日	曇り	0.08		吉田運動場	2月14日	曇り	0.06		
	登米中学校	2月4日	曇り	0.06		米山公民館	2月7日	晴れ	0.05		
	警察資料館	2月4日	曇り	0.07		米山海洋センター	2月7日	晴れ	0.06		
	高倉勝子美術館	2月4日	曇り	0.05		石越幼稚園	2月12日	曇り	0.06		
	登米総合運動公園	2月4日	雪	0.10		石越小学校	2月12日	曇り	0.06		
	教育資料館	1月28日	晴れ	0.07		石越中学校	2月12日	曇り	0.04		
	伝統芸能伝承館	1月28日	晴れ	0.07		石越公民館	2月5日	雪	0.08		
	登米総合体育館	1月28日	晴れ	0.05		石越総合運動公園	2月5日	雪	0.08		
東和	登米公民館	1月28日	晴れ	0.07		西郷幼稚園	2月13日	晴れ	0.05		
	米谷幼稚園	2月4日	曇り	0.07		西郷小学校	2月13日	晴れ	0.05		
	米谷小学校	2月4日	曇り	0.07		東郷幼稚園	2月13日	晴れ	0.04		
	米川小学校	2月4日	曇り	0.07		東郷小学校	2月13日	晴れ	0.05		
	錦織小学校	2月4日	曇り	0.06		南方幼稚園	2月13日	晴れ	0.05		
	東和中学校	2月4日	晴れ	0.11		南方小学校	2月13日	晴れ	0.05		
	米川公民館	2月4日	曇り	0.12		南方中学校	2月13日	晴れ	0.05		
	東和国際交流センター	2月4日	曇り	0.08		南方中央運動広場	2月13日	晴れ	0.05		
	楼台コミュニティセンター	2月4日	曇り	0.06		南方総合運動場	2月6日	晴れ	0.05		
	東和総合運動公園	1月28日	晴れ	0.06		南方武道伝承館	2月13日	晴れ	0.05		
中田	東和勤労青少年ホーム	1月28日	晴れ	0.05	室内	西郷公民館	2月6日	晴れ	0.05		
	さくら幼稚園	2月12日	曇り	0.06		南方公民館	2月6日	晴れ	0.05		
	中田幼稚園	2月12日	曇り	0.05		東郷公民館	2月6日	晴れ	0.05		
	浅水小学校	2月12日	曇り	0.06		つやま幼稚園	2月14日	曇り	0.05		
	宝江小学校	2月12日	曇り	0.06		柳津小学校	2月14日	曇り	0.05		
	加賀野小学校	2月12日	曇り	0.06		横山小学校	2月14日	曇り	0.07		
	上沼小学校	2月12日	曇り	0.08		津山中学校	2月14日	曇り	0.05		
	石森小学校	2月12日	曇り	0.07		津山林業総合センター	2月7日	曇り	0.07	室内	
	中田中学校	2月12日	曇り	0.06		津山運動広場	2月7日	曇り	0.06		
	中田球場	2月5日	晴れ	0.05		津山河川運動場	2月7日	曇り	0.09		

※国の基本方針で示された、追加放射線量の長期的な目標は年間1ミリシーベルト。1時間当たりでは、地表から50cm～1mの高さで、0.23マイクロシーベルトとなります。

※保育所・児童館などの測定結果については、広報とめ3月21日号でお知らせします。

【問い合わせ】市民生活部環境課（生活環境係） ☎ 0220(58) 5553

空間放射線量の測定結果はホームページに掲載およびメール配信しています。

市では、福島第一原子力発電所の事故に伴う放射線量の影響について、定期的に空間放射線量を測定しています。測定場所は市消防署および消防署出張所や学校、教育施設などです。測定結果は市ホームページに掲載するとともに、市消防署および消防署出張所の測定値を毎日メール配信サービスにて配信しています。

メール配信サービス

【登録方法】市ホームページから登録する方法と、携帯電話から右記の登録用メールアドレスを入力して登録する方法があります。

【情報料】無料
※ただし、登録やメール受信時の通信料や回線使用料は本人の負担となります。

【問い合わせ】総務部市長公室（広報広聴係） ☎ 0220(22) 2090

登米市メール配信サービス

登録用URL・
メールアドレス

■ <http://tomecity.mail-dpt.jp/>（公開サイト）
■ tome@entry.mail-dpt.jp（仮登録用アドレス）

上記仮登録用アドレスを入力し、空メールを送信してください。その後、仮登録完了メールが送信されますので案内にしたがって本登録してください。※右のQRコードで携帯電話から読み取りもできます。



迫

日野薫さん作品パネル寄贈



▲作品制作の経緯や思いを布施市長へ話す日野さん(右)

ふるさとへの思い作品に

迫町佐沼出身で書家・デザイナーの日野薫さん(仙台市在住)から、市に作品が寄贈されました。
「登米市」と題した作品は、日野さんがイメージするふるさととが、これからもこうあってほしいという思いを表現したものです。迫町で看板店を営む熊谷圭太さんが協力しパネル化しました。
日野さんの作品は、多くの皆さんにご覧いただけるよう市役所迫庁舎ロビーに展示。1月20日に市役所を訪れた日野さんは、展示された大型パネルを見ながら、布施孝尚市長に作品へ込めた思いなどを話していました。

登米

死亡事故ゼロ6000日を達成



▲地区を代表して表彰状を受け取る佐藤協議会長(左)

交通安全に努め継続誓う

平成9年8月から交通死亡事故が発生していない葛籠淵地区では、平成25年12月18日をもって交通死亡事故ゼロ6000日を達成。12月19日、登米総合支所で交通安全対策協議会(布施孝尚会長)から葛籠淵地区コミュニティ推進協議会(佐藤武夫会長)へ表彰状が贈られました。
賞状を受け取った佐藤会長は「交通死亡事故ゼロ6000日の達成は地域全員で成し遂げられたもの。さっそく地域に報告して喜びを分かち合い、今後も記録を継続していくよう交通安全に努めたい」と決意を新たにしていました。

東和

地区文化財防火訓練を実施



▲消火器による初期消火訓練。被害を最小限に食い止めます

火災から不老仙館を守る

文化財防火訓練が1月26日、「不老仙館(米谷)」を会場に開催。地域住民をはじめ自主防災組織や消防団員、消防後援会員、婦人防火クラブ員など約140人が参加しました。
この日の訓練は、館内の庭園から火災が発生したことを想定。始めに通報や非常時持ち出しなど、火災に連動した訓練を実施。その後、バケツリレーや消火器による初期消火、消防団員による火災防ぎ訓練を行いました。参加者は、大切な文化財を火災から守るため真剣に取り組み、日頃の訓練の重要性を再認識していました。

中田

石ノ森章太郎メモリアルデー



▲仮面ライダーXの主演が決まった時の喜びなどを語る速水さん(右)

Xライダーがやってきた

1月26日、石ノ森章太郎ふるさと記念館友の会(小野寺裕幸会長)主催による「石ノ森章太郎メモリアルデー」が開催されました。メモリアルデーは、石ノ森先生の誕生日(1月25日)と命日(1月28日)が1月であることから毎年1月の最終日曜日に記念館で開催されています。当日は、マンガ教室や餅つき体験などのイベントのほか、仮面ライダーX(エックス)を演じた俳優の速水亮さんと漫画家の村枝賢一先生のトーク&サイン会も開催。速水さんは「スターの道が開けたと思いうれしかった」など、主演に抜きされた当時の喜びを話していました。

白銀の世界で交流深める

ときめきキッズクラブ会員の交流を深めることを目的とした「そり遊び・スキー教室」が2月8日、大崎市鳴子温泉のオニコウベスキー場で開催。ときめきキッズクラブやジュニアリーダー会員、講師の総勢43人が参加しました。雪が降りしきるゲレンデでは、町内のスキー愛好者を講師にスキーの基礎指導を受けたり、そり専用広場で思い切り遊んだり、子どもたちは2班に分かれて雪山を満喫していました。昼食時には、おいしい料理を囲みながら、そり遊びやスキーの話で大いに盛り上がり、交流を深めていました。

そり遊び・スキー教室開催

豊里



▲ゲレンデでみんなそろって記念撮影

米山

新婚さんのお祝い会を開催



▲レクリエーションなどを通じて新婚さん同士の交流を深めました

地域みんなで盛大に祝福

恒例行事となっている「新婚さんお祝い会」が2月2日、中津山公民館で開催されました。この行事は、米山町域で前年中に結婚した夫婦を招待し、地域の人たちと交流をしながら盛大に祝福しようとして毎年開催しています。今年も3組の新婚さんが参加。迫町出身の千葉和彦さんによるミニライブや新婚ラブゲーム、カラオケなどで盛り上がりました。参加した新婦の一人、佐々木亜里華さん(追土地)は「迫町から嫁いできました。親切で優しい人たちがばかりで、すぐに地域に解け込むことができました」と笑顔で話していました。

石越

災害ボランティア研修会



▲講師の吉田さんの話に熱心に耳を傾けていました

自主防災の重要性を学ぶ

災害時に地域でできる自主防災について学び、地域防災力を高めようと「災害ボランティア研修会」が1月29日、石越公民館を会場に開催されました。

当日は約100人が参加。講演では、総務省消防庁防災アドバイザーY防災ネット代表の吉田亮一さんが、仙台市内で自ら関わってきた自主防災組織の取り組みを、東日本大震災の体験も交えながら紹介しました。

研修会では、業務用無線機の使い方の実演や非常食の試食なども行われ、参加者は、自主防災の重要性をあらためて感じていました。

家族仲良しで地域も元気

西郷地区コミュニティ推進協議会では1月11日、「笑つてなまつて地域づくり」と題した新春講演会を開催。会場の西郷公民館には約180人が訪れました。

講師は遠野市出身で落語家の六華亭遊花さん。岩手と宮城の方言をミックスした軽快なしゃべりで「むつけた顔より笑った顔がいいっちゃねー」と笑いを誘いながら、「夫婦仲良し、家族仲良しだったら、地域の集まりにも行きやすく、地域が元気になっちゃねー」などと話しました。参加者は「いっぱい笑ってスッキリした」「地域づくりや毎日の生活の参考になった」とみんな笑顔でした。

西郷コミュニティ新春講演会

南方



▲公民館が寄席に。笑ったりうなずいたりして聞き入っていました

津山

横山不動尊で節分の豆まき



▲豆まきでは、たくさんの福を求めて豆袋を拾っていました

一年の無病息災を願って

横山不動尊の節分豆まきが2月2日、横山不動尊境内で行われ、子どもからお年寄りまで多くの人が詰め掛けました。

境内には、本堂で「祈禱を受けた運営委員ら関係者が「かみしも姿」で並び、「福は内、鬼は外」の掛け声とともに落花生の入った袋を勢いよくまきました。訪れた人たちは、一つでも多くの福を呼び込もうと、大きな歓声を上げながら豆袋を拾っていました。

まかれた豆袋には、当たり付きの「福豆」も。福豆を拾った人には不動尊尊前で祈願された福餅など縁起物が贈られました。

未来に 受け継ぐ

2月1日、中田生涯学習センターを会場に、

「伝統・伝承芸能を考えるワークショップ」が開催されました。

平成4年に、民俗芸能などを観光など商工業振興に活用するため

「地域伝統芸能等を活用した行事の実施による観光及び

特定地域商工業の振興に関する法律」が策定、

「地域伝統芸能」という言葉が普及し始めました。

しかし、保存会などの会員で50歳以下は約2割にとどまっているのが現状です。

今、伝統伝承芸能の未来を考えます。(29～31ページ)



石越の赤谷南部神楽保存会による演舞。財宝を奪い取るため、宿に押し入った盗賊・熊坂長範を牛若丸(後の源義経)が退治し、平泉に下るという場面。この神楽は狂言仕立てになっている珍しい神楽です

民俗芸能 未来への提言

「伝統・伝承芸能を考えるワークショップ」では、課題を整理し、今後の方向性を探るため、宮城県多賀城跡調査研究所所長の笠原信男さんと南部神楽活動支援協議会最高顧問の神洗文眞さんによる基調講演が行われました。概要は次のとおりです。

基調講演①

『宮城県及び登米市の
伝統・伝承芸能を考える』

宮城県多賀城跡調査研究所

所長 笠原信男さん



●民俗芸能伝承の課題

民俗芸能を伝承する上で最近の一番の課題は、伝承者の高齢化、後継者の不足だと思っている。中でも高齢化というのは、芸能の伝承者だけではなく、日本全体の問題である。しかし、民俗芸能の伝承に関わっている人の年齢はもともと高く、残念ながら超高齢化となっている。

少子化も同じ。後継者になる母体がそもそも少なくなってきた。この二つが今後

の民俗芸能の伝承を考える中で、非常に大きな問題になっていく。

●学校教育との連携

伝承というところで考えれば、安定して後継者がいて、一年に何回も上演できればいいが、そうはいかない。そんな中で、学校と連携することで後継者を確保していく。学校の総合的な学習の時間を利用し、保存会などが生徒たちに教えるという形がある。

仙台市泉区の福岡鹿踊・剣舞は、昭和50年4月に福岡小学校と保存会、当時の泉市教育委員会が児童に教育活動として練習させ、継承に関わることで意見が一致。特別クラブ活動で保存会の指導が始められた。その後、現在まで上級生が鹿踊・剣舞を伝承している。

保存会の指導のほか、6年生が師匠として4・5年生に指導も行っている。福岡小学校は、平成22・23年度に文部科学省のモデル事業実践研究校となり、全学年が鹿踊・剣舞に取り組んでいる。

●伝承と観光との融合

民俗芸能というのは、伝統的な舞の形などをできるだけ残してほしいということがあ。一方で、それだけを守っ

ていくと、一般の人にはなじみが薄くなり、芸能をやっている人たちだけのものになってしまう。広く一般の人たちに芸能を知ってもらうことが必要だと考える。

観光イベントとしての開催が、結果として伝承に役立っているものとして「北上みちのく芸能まつり」がある。

北上みちのく芸能まつりは、まつりをきっかけに復活した民俗芸能が、今の北上市にある芸能の8割にも及んでいる。観光イベントが一つの道としてあるのではないかと思う。

登米市では、「登米市民俗芸能大会」が毎年開催されている。民俗芸能の保護の視点で実施されているこの大会に、観光的な視点を入れて開催する道があるのではないかと考える。

●団体の協力・連携が不可欠

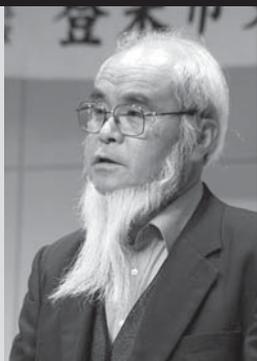
未来へ民俗芸能を伝承していくためには、小さな団体個々では太刀打ちできない。知恵を出し合う組織や場所づくりが大切になる。しかし、組織を維持するエネルギーも大変なものがある。お互いに同じような状況で活動している団体が協力・連携していくことが重要ではないか。

基調講演②

『現在の南部神楽・
未来に向かって』

南部神楽活動支援協議会

最高顧問 神洗文眞さん



●南部神楽の定義

南部神楽はいろいろな名称、表現をされてきた。「南部神楽」と統一すべきではないか。日本はもちろん世界に向かって南部神楽の素晴らしさを声高らかに伝えたい。

南部神楽は「和製のオペラ」。いわゆる古き能や歌舞伎の調べ、演目や演出を残しながら、民謡調の歌いまわして演ずるのが南部神楽の特徴、定義だと思う。

●今が発信の絶好の機会

世界文化遺産となった平泉。その文化を発信することができるとは、それにまつわる演目を行っている南部神楽ではないかと思う。今が南部神楽を世界に発信する絶好の機会だと思う。





「仙台胴」とも呼ばれる甲冑。柳生心眼流兵法には実際に甲冑を着用して演武するものもあります

パネル展示も実施

市内で伝統・伝承芸能に取り組む人など約150人が参加

基調講演の2人と市民俗芸能協会事務局の千葉博幸さん、佐沼郷土史研究会会長の芳賀則夫さんの4人が「伝統伝承芸能 未来への道」をテーマに語り合いました

平成25年度「文化
伝統・伝承



国・県・市指定無形民俗文化財・無形文化財(市内)

名称	団体名	町域
◎国指定重要無形民俗文化財 [1]		
米川の水かぶり	米川の水かぶり保存会	東和町
◎宮城県指定無形民俗文化財・無形文化財 [5]		
日高見流浅部法印神楽	日高見流浅部法印神楽保存会	中田町
登米能	登米謡曲会	登米町
上町法印神楽	上町法印神楽保存会	豊里町
とよま秋まつりの山車行事	登米秋まつり協賛会	登米町
柳生心眼流甲冑術・甲冑柔術	柳生心眼流兵法新田柳心館	迫町
◎登米市指定無形民俗文化財 [32]		
鹿島流十六拍子南部神楽	北方神楽継承会	迫町
滝沢流南部神楽	山ノ神神楽保存会	迫町
大網おいとこ踊り	大網おいとこ踊り保存会	迫町
森邑おいとこ	森邑おいとこ保存会	迫町
佐沼鹿踊	佐沼鹿踊伝承会	迫町
岡谷地南部神楽	岡谷地南部神楽保存会	登米町
とよま囃子	とよま囃子保存会	登米町
嵯峨立神楽	嵯峨立神楽保存会	東和町
飯土井神楽	飯土井神楽保存会	東和町
細野神楽	細野神楽保存会	東和町
綱木之里大名行列	綱木之里大名行列保存会	東和町
嵯峨立甚句	嵯峨立甚句保存会	東和町
小島田植踊	小島田植踊保存会	中田町
上沼法印神楽	上沼法印神楽神議会	中田町
加茂流館神楽	加茂流館神楽保存会	中田町
石森打ばやし	石森打ばやし保存会	中田町
笹流加賀野神楽	笹流加賀野神楽保存会	中田町
上沼獅子舞	上沼獅子舞保存会	中田町
小島願人踊	小島願人踊保存会	中田町
浅部七福神舞	浅部七福神舞保存会	中田町
長谷山甚句	長谷山甚句保存会	中田町
長谷山打囃子	長谷山打囃子保存会	中田町
長谷観世音虎舞	長谷観世音虎舞保存会	中田町
巻おいとこ踊	巻おいとこ踊保存会	中田町
本宮神楽	本宮神楽保存会	中田町
大曲法印神楽	大曲法印神楽保存会	豊里町
とよさと豊年ばやし	とよさと豊年ばやし保存会	豊里町
赤谷神楽	赤谷南部神楽保存会	石越町
須賀神流芦倉獅子舞	須賀神流芦倉獅子舞保存会	石越町
長下田神楽	長下田神楽保存会	石越町
畑岡神楽	畑岡神楽保存会	南方町
柳生心眼流兵法	古武道柳生心眼流兵法心武館	南方町

※米川の水かぶり、とよま秋まつりの山車行列は風俗慣習として指定



◎事例発表

さぬましおどり 佐沼鹿踊(迫町)



とよま囃子(登米町)



あかやがくら 赤谷神楽(石越町)

市民の広場

市民の広場のコーナーでは、掲載を希望する人や情報を募集しています。広報広聴係まで情報をお寄せください。

総務部市長公室
広報広聴係

〒987-0511 登米市迫町佐沼字中江2丁目6-1
☎0220(22)20900 FAX0220(22)9164
Eメール:kohono@city.tome.miyagi.jp

ぼくとわたしの夢 *Dream* 106



なおまさ
佐藤 直政君 (豊里小中・8年)
(豊里町新町・圭さん方)

夢を応援してくれる両親を支えに 人の何倍も努力して医師を目指す

豊里小中学校の生徒会長を務める直政君。学校を良くするために新しいことに取り組んでみたいと意気込みを語ります。

そんな直政君の将来の夢は「医師になること」です。小さい頃は科学者になりたくて図鑑などを読んでいました。4年生になった頃から、命を助けることができる医師に憧れるように

なりました。「将来は東北大病院で働きたい。大学に入って国家資格を取るため、人より2倍3倍勉強します」と大きな目標に意欲を燃やします。

「苦手科目は、父が勉強をみてくれます。母も夢を応援してくれています」と話す直政君。支えてくれる両親とともに夢に向かって突き進みます。



しょうた
榎原 翔太くん (2歳)
平成23年11月13日生まれ
迫町・光ヶ丘東
一美さんの長男

箸を使ってご飯を食べられるようになった翔太くん。靴も自分で履けます。家では、お姉ちゃんの美咲ちゃんと一緒に家庭用ゲーム機「ウィー」で遊んでいます。



か
千葉 もも華ちゃん (1歳)
平成24年3月2日生まれ
米山町・的場
和正さんの次女

「くまのプーさん」が大好きで、ぬいぐるみや枕、三輪車もプーさんです。いつもお姉ちゃんのゆらちゃんと色鉛筆を使ってお絵描き遊びをしています。

わが家のアイドル *Kid's*



みゆ
遠藤 未結ちゃん (2歳)
平成24年1月13日生まれ
東和町・米谷3
洋之さんの長女

近所の人たちと仲良しで、よく遊んでもらう人気者。最近「こどもちゃれんじ」のしまじろうの影響で自分のことを「ぼく」と言ってしまう未結ちゃんです。



しょうた
菊地 翔太くん (3歳)
平成22年8月31日生まれ
南方町・北大畑
伸也さんの次男

人見知りをしないでよくおしゃべりする翔太くん。近くで工事があると見に行く重機好き。晴れの日はお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に砂遊びをしています。

職場の先輩たちがお手本 歯科助手目指して頑張る



ゆり
八乙女 百合さん (30歳)
(中田町長崎・やぎ座)

- ★身長と血液型 165センチでA型です。
 - ★現在は 昨年4月から、みなみかた歯科医院で働いています。主に清掃業務として、患者さんが使ったトレーや院内清掃をします。少しずつ歯科助手の仕事をさせてもらえるようになりました。今は、子ども4人を育てているシングルマザーです。
 - ★自分の性格 短気。責任感は強いと思います。
 - ★休日 は 冬は家に居ることが多いのですが、夏は子どもたちと「よさこい」に参加しています。
 - ★趣味は よさこいです。子どもたちが「やってみたい」と一緒にはじめたのがきっかけです。仲間と交流ができ、とても楽しいです。
 - ★理想の男性像 優しく子どもが好きな人。
 - ★今やってみみたいこと 歯科助手を目指して頑張りたい。職場の先輩たちのように、てきぱきと仕事ができるようになりたいです。
- 私生活では、毎年仙台で開催されている「みちのくYOSAKOI Iまつり」のコンテスト予選を突破して、決勝ステージに家族みんなで出場してみたいですね。

文芸

【俳句・川柳】

俳句

作品募集!

●4月号は短歌です。住所・氏名・電話番号を記入し、3月10日までご応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。●応募者多数の場合選考して掲載します。

応募総数24作品

昨日より色増す日向の牡丹の芽

秋葉 初枝 (東和)

クレソンの灌ぐ暖音水温む

小野寺 和彦 (東和)

枯れ枝の雀数百さつと散る

小野寺 郁夫 (中田)

福寿草百万ドルの孫の笑み

五十嵐 進太夫 (中田)

割り出され身震いをする寒卵

山内 晨 (中田)

太き尻ざぶんと鳴の水輪かな

石川 敦子 (中田)

ゆるやかに老ひてゆきたし雑煮食ふ

小野寺 禮喜子 (中田)

初春や安らかにあれ天も地も

三浦 しん (中田)

床の間の益寒梅を愛でし客

佐藤 喜美子 (津山)

寒梅にみくじの願い固く結び

佐竹 恒子 (津山)

川柳

苦虫の顔にすつきり正露丸

太田 若男 (迫)

パソコンで脳のリフォーム出来て春

千葉 青柳 (迫)

笑い皺貴方の年輪ほこらしい

高橋 とく子 (豊里)

鍋底で浮くタイミンダ待つはつと

佐々木 康子 (米山)

お知らせ 暮らしの情報

Tome City Information

- ▶ **迫総合支所**
迫町佐沼字中江二丁目6番地1
☎ 0220-22-2111
- ▶ **登米総合支所**
登米町寺池日子待井381番地1
☎ 0220-52-5051
- ▶ **東和総合支所**
東和町米川字六反55番地1
☎ 0220-53-4111
- ▶ **中田総合支所**
中田町上沼字西桜場18番地
☎ 0220-34-2311
- ▶ **豊里総合支所**
豊里町小口前80番地
☎ 0225-76-4111
- ▶ **米山総合支所**
米山町西野字的場181番地
☎ 0220-55-2111
- ▶ **石越総合支所**
石越町南郷字愛宕81番地
☎ 0228-34-2111
- ▶ **南方総合支所**
南方町新高石浦130番地
☎ 0220-58-2111
- ▶ **津山総合支所**
津山町柳津字本町218番地
☎ 0225-68-3111

市営住宅・定住促進住宅 入居者を募集

①市営住宅

▼ **迫新下谷地住宅6号**(迫町北方字新下谷地114番地)
募集戸数/1戸(2K)
家賃月額/3500円

▼ **津山平形住宅2棟3号**(津山町柳津字平形75番地1)
募集戸数/1戸(3DK)
家賃月額/1万4100円

▼ **駐車場/1台あり**
【対象者】住宅に困っている世帯
※各住宅に重複して申し込みすることはできません。



【入居資格】①入居収入基準が15万8000円以下であること(小学校就学前の子どもがいる世帯、身体障がい

者、60歳以上は21万4000円以下)。※収入基準の算出は、入居予定者の合計所得から世帯主以外の入居予定者一人につき38万円を控除し、12カ月で割った金額です②同居する親族がいること(婚姻予定も可)。※原則として単身の入居はできませんが、60歳以上(ただし、特例として平成18年4月1日現在で50歳以上も可)、身体障がい者(1~4級)、精神・知的障がい者は単身入居することが可能です。詳細についてはお問い合わせください③入居者全員に市税の滞納がないこと④現在、市営住宅に入居している人は申し込みできません⑤申込者または同居予定者が暴力団員でないこと

②定住促進住宅

▼ **中田定住促進住宅1号棟**
501号
募集戸数/1戸(3DK)

家賃月額/2万5900円
▼ **豊里定住促進住宅1号棟**
503号
募集戸数/1戸(3DK)
家賃月額/2万5900円

【入居資格】①市内に定住を希望し、住宅を必要としていること②市税を滞納していないこと③暴力団員でないこと④年収(賞とおよび利子所得などで継続的な収入を含む)の12分の1の額が、家賃の3倍以上であること

【駐車場】1台のみ、別途2000円

【共通事項】
【申し込み先】各総合支所市民課または建設部住宅都市整備課(市役所中田庁舎2階)
【申込期限】3月14日(金)
※期限厳守

【問い合わせ】建設部住宅都市整備課(住宅管理係)
☎ 02220(34)2316
※郵送による申し込みは受け

【子どもの補聴器
購入費用を助成します】
市内在住のお子さんで、軽度・中等度難聴と診断された人の補聴器購入に対し助成します。

【対象者】▼市内在住の18歳未満の子ども▼両耳の平均聴力レベルが30デシベルから70デシベルまでで、身体障害者手帳の交付対象とならないこと

▼補聴器の購入により、脳の発達および言語の早期習得などに一定の効果が期待できること▼同一世帯の市町村民税最多納税者の納税額が46万円未満であること

【交付手続き】各総合支所市民課(市民係)で受け付けします

【持参するもの】①印鑑②見積書③医師意見書
※補聴器の購入前に申請が必ず

【問い合わせ】福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎ 02220(58)5552
※職業のあつせんではありませんのでご注意ください。

祝祭劇場イベント情報

- なごみ
● **和のつるし雑展**
日時/3月1日(土)~28日(金)
10:00~17:00
(28日は正午まで)
会場/レストラン「蓮房」
入場料/無料
 - **新舞踊まつり
20周年記念チャリティーショー**
日時/3月16日(日)
開演10:30
会場/大ホール
入場料/1,500円
 - **ヤマハ音楽教室
スプリングコンサート**
日時/3月16日(日)
開演10:00
会場/小ホール
入場料/無料
- ※毎週月曜日は休館日です。月曜日が祝日の場合はその翌日が休館日になります。
※イベントは主催者の都合により変更や中止になる場合があります。
- 【問い合わせ】登米祝祭劇場
☎ 0220(22)0111

要となりますのでご注意ください。

【問い合わせ】福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎ 02220(58)5552

【問い合わせ】各総合支所市民課(市民係)

【障がい者の「つ」と相談】
【相談日時】3月25日(火)①午前9時30分~②午前11時~③午後1時30分~④午後3時~

【場所】県東部保健福祉事務所登米地域事務所(登米保健所)

【申し込み・問い合わせ】▼障害者就業・生活支援センター「ゆい」
☎ 02220(21)1011

▼福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎ 02220(58)5552

※職業のあつせんではありませんのでご注意ください。



阿部 遥輝くん
(迫町新町・陽一さん)



阿部 壮翼くん
(迫町山の内・猛さん)



浅野 楓馬くん
(迫町大網東・晃さん)



浅野 葵香ちゃん
(迫町駒木・祐嗣さん)



佐々木 萌衣ちゃん
(迫町大網南・幸也さん)



杵渕 璃心ちゃん
(迫町永田・政博さん)



上野 莉桜ちゃん
(迫町内町・浩次さん)



伊東 弘夢くん
(迫町大網南・孝弘さん)



伊藤 あかりちゃん
(迫町江合・祐司さん)



中村 大斗くん
(迫町八幡・裕美さん)



千葉 空翔くん
(迫町板橋・良太さん)



瀬戸 綾華ちゃん
(迫町坂戸・哲也さん)



清野 玲奈ちゃん
(迫町鉄砲丁・穰さん)



篠原 凜ちゃん
(迫町大網南・弘喜さん)



梅木 奏ちゃん
(登米町金沢山・恵子さん)



遊佐 美咲ちゃん
(迫町山の上・聡さん)



武藤 蒼生ちゃん
(迫町大網南・一博さん)



名生 茉央ちゃん
(迫町小金丁・登志郎さん)



芳賀 健くん
(迫町赤沼・義久さん)



高橋 玲人くん
(南方町北本郷・潤さん)



高橋 悠くん
(南方町梶沼・健一さん)



阿部 苺果ちゃん
(南方町砥落・文明さん)



佐藤 蒼空くん
(登米町北沢・孝幸さん)

11月6日までの3歳児健診(3歳6~7カ月児)でむし歯がなかった子は、市内4地区で39人中23人でした。

※()内には申し出があった保護者の名前を掲載しています。

ねんきんだより

年金相談所が 完全予約制になります

古川年金事務所では、年金給付の請求手続き、年金給付の支払い内容、国民年金・厚生年金の加入状況など、年金についての相談に対応するため、月1回、市役所迫庁舎で年金相談所を開催しています。

平成25年10月から、混雑解消のため一部予約制度を実施してきましたが、混雑が解消されず、長時間お待たせする状態が続いています。さらに、相談内容も年金制度全般の多岐にわたり、相談時間も長くなっている状況です。

本年4月には、年金制度改革

国民健康保険高年齢受給者証をお持ちの人へ

現在お持ちの高年齢受給者証は3月中に有効期限が切れます。4月1日からの新しい高年齢受給者証は3月末までに各行政区長が配布します。

●国民健康保険高年齢受給者証とは…75歳になると後期高齢者医療制度の対象となりますが、それまでの70歳以上75歳未満の国保加入者には国民健康保険証とは別に「国民健康保険高年齢受給者証」が交付されます。70歳以上の被保険者は、医療機関で受診の際、保険証と併せて高年齢受給者証を提示する必要があります。

※病院窓口の負担割合は高年齢受給者証に表示しています。高年齢受給者証は、70歳の誕生月の翌日(ただし、1日生まれの人は誕生月)から利用することができます。

【問い合わせ】市民生活部国保年金課(保険給付係) ☎ 0220(58)2166

正により、相談に対応する時間がさらに長くなる可能性があります。このことから、本年4月から市役所迫庁舎(1階会議室)で開催する年金相談所の受け付けを電話での完全予約制にさせていただきます。

※平成26年度の年金相談所の開設は、毎月第4木曜日の予定です。

※予約を受け付ける際には、「相談される人の氏名」「基礎年金番号」「電話番号」「相談内容」などについて確認させていただきます。

ご利用をお願いします。

【予約受け付け・問い合わせ】古川年金事務所(お客様相談室) ☎ 0229(23)1204

子ども夜間安心コール

- 電話番号
#8000
(プッシュ回線の固定電話、携帯電話から)
☎ 022(212)9390
(プッシュ回線以外の固定電話、PHSから)
- 相談時間
毎日午後7時～翌朝午前8時

休日・夜間診療案内

- 休日・夜間診療案内は下記の番号で24時間対応しています。
- ☎ 0229(24)2267
 - 3月の休日急患当番医・歯科休日当番医は「広報とめ」2月21日号に掲載しています。

年金相談所を 開設します

年金の申請手続き、支払い内容、加入状況など、年金についての相談に応じます。

【日時】3月27日(木)午前9時30分～正午、午後1時～午後3時30分

【場所】市役所迫庁舎(1階会議室)

【問い合わせ】古川年金事務所 ☎ 0229(23)1204

※電話で予約することもできます(相談日前日まで)

多重債務 無料法律相談

債務の返済などについて、弁護士、司法書士と協力し、月2回無料相談日を設けて相談に応じます。秘密は厳守されますので、気軽にご相談ください。事前に電話での予約が必要です。

【日時】3月14日(金)、3月28日(金)午後1時15分～午後4時15分

【場所】迫にぎわいセンター
【担当】14日 佐竹孝行(司法書士)、28日 菅野高雄(弁護士)

※事前に電話で予約してください。

【相談専用電話】☎ 02220(34)2308

【相談料】無料

【問い合わせ】産業経済部商工観光課(商工業振興係) ☎ 02220(34)2734

市税など口座振替の 領収証書の発行を廃止

市では、市税などを口座振替で納付いただいた人に、翌年度の4月に一括して口座振替領収証書を送付してきました。しかし、省資源化や経費削減などを図るため、平成25年度中に引き落としをした分から領収証書の発行を廃止さ

東日本大震災被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます 広告

まごころ込めてお手伝いいたします

45th (株)国分や葬祭店

経済産業大臣認可 全葬連 宮城県葬祭業協同組合加盟店
http://www.zensoren.or.jp/ http://www.miyagi-sougi.com/

提携協力団体 COOPみやぎ生協・JP日本郵政グループ労組・宮交共済会・JAM・勾当台クラブ・etc

[本社] ☎42-2105 ◆米谷店ショールーム ☎53-2323 [登米店] ☎52-3906
◆葬祭会館元町ホール

エネルギーに夢をのせて 広告

KUMANEN
快適生活 創造企業
熊谷燃料住設株式会社

- アクアショップKUMANEN
- BFCクマネン
- コインランドリー 清潔空間
- なごみの家 さらり

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐佐字北散田120番1
TEL.0220-22-2415(代) FAX.0220-22-6732
http://www.kumanen.jp E-mail:info@kumanen.jp

新刊紹介

迫図書館 / ☎0220 (22) 9820

大人向け



昭和の犬 Perspective Kid
姫野カオルコ / 著

昭和生まれの女性の半生。その日々の出来事に、犬がそっと寄り添います。第150回直木賞受賞作。

子どもをひとり暮らしさせる！親の本

主婦の友社 / 編

「仕送りはいくら？」物・お金・家・心の準備…何をいつすればいいのか、ご紹介いたします。



iPhone・スマートフォンで始めるLINE・Twitter・Facebook

マイナビ / 出版
やってみたくて、よくわからない。そんな疑問にお答えする一冊です！

子ども向け

ばかばか

福知信夫 / 作

広い野原を馬が走っています。「ばかばか」の繰り返しを楽しむ絵本です。



トムとジェリーのたびのえほん 日本 富士山のぼる

三上葉 / 作画
みんなの大好きなトムとジェリーが、富士山を案内してくれます！



ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える

石井光太 / 文
学校へ行きたくて命を狙われたマララさん。みんなはどうして学校に行くと思いますか？



【廃止対象税目など】▼市・県民税(普通徴収)▼固定資産税▼軽自動車税※車検対象車両は除く▼国民健康保険税(普通徴収)▼水利地益税▼介護保険料(普通徴収)▼後期高齢者医療保険料(普通徴収)

【問い合わせ】総務部収納対

【交付手続き】3月3日(月)から随時、各総合支所市民課

【利用券の使い方】▼1回乗るごとに1枚、1カ月に4枚まで利用できます(1年間で最大48枚)▼1枚につき小型タクシーの基本料金分になります

【問い合わせ】福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎0220(58)5552

各総合支所市民課(市民係)

JICAボランティアを募集します

独立行政法人国際協力機構(JICA)では、JICAボランティアア平成26年度春の募集をします。JICAポラン

【問い合わせ】JICA東北
☎022(223)4772

※詳しくはJICA東北ホームページをご覧ください。
<http://www.jica.go.jp/tohoku/index.html>

【対象者】①身体障害者手帳1級、2級所持者と3級所持者のうち、在宅酸素濃縮器または車いすを常時利用している人②療育手帳A所持者③精神障害者保健福祉手帳1級、2級所持者④⑤に該当する人のうち、対象者本人の住民税が非課税の人

【問い合わせ】福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎0220(58)5552

【対象者】①身体障害者手帳1級、2級所持者と3級所持者のうち、在宅酸素濃縮器または車いすを常時利用している人②療育手帳A所持者③精神障害者保健福祉手帳1級、2級所持者④⑤に該当する人のうち、対象者本人の住民税が非課税の人

【問い合わせ】福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎0220(58)5552

【問い合わせ】福祉事務所生活福祉課(障害福祉係)
☎0220(58)5552

各総合支所市民課(市民係)

JICAボランティアを募集します

独立行政法人国際協力機構(JICA)では、JICAボランティアア平成26年度春の募集をします。JICAポラン

【問い合わせ】JICA東北
☎022(223)4772

※詳しくはJICA東北ホームページをご覧ください。
<http://www.jica.go.jp/tohoku/index.html>

策課(納税係)
☎0220(22)2169

福祉タクシー券を交付します

【持参するもの】①障害者手帳②印鑑

※平成25年1月1日以降に本市に転入した人については、平成25年1月1日現在の住所から、住民税の平成25年度課税(非課税)証明書を取り寄せて、申請の際に提出してください。

【募集期間】4月1日(火)～5月12日(月)

【応募資格】日本国籍を持つ次の人①青年海外協力隊②20歳～39歳③シニア海外ボランティア④40歳～69歳

【募集分野】9分野、約120職種

【派遣国】約70カ国

【派遣期間】原則2年間

【応募方法】所定の応募書類を郵送で提出

「お金」の悩みごと、親身に解決します。 広告

何回でも相談無料・着手金0円・出張相談可

毎年500件以上の依頼実績があり95%の方に満足いただいております。法務大臣認定司法書士が「過払い金」返還請求を代行致します。

過払い請求をお考えの方へ

- 過払い返還請求ではブラックリストに載りません。
- 時効は完済から10年。お急ぎ下さい。
- その相続放棄待った!「過払い金」も相続可能。

お支払が難しい方へ

- ご依頼後、速やかに取り立てがストップ!
- 報酬は返済ストップ後分割払いも承ります!
- 家族に知られずに手続きが可能です!

司法書士法人 **アーサー&パートナーズ** TEL.0120-48-3160

法務大臣認定 代表司法書士 久保 巖 〒983-0852 仙台市宮城野区権問2-2-11バスコビル805
(宮城県司法書士会登録039) / 簡易訴訟代理関係業務認定委員会 認定第701011号 (JR仙台駅東口より徒歩3分) 夜間でもアーサー

登米市は自主財源を確保するため、広報とめに有料広告を掲載しています。

確かな技術で まかせて安心 広告

電気工事・オール電化工事・電気通信工事
太陽光発電設備工事・IH、エコキュート・消防設備工事・点検

有限会社 五島電機

登米市中田町宝江新井田字荒谷60-1
TEL.0220-34-3349 FAX.34-5792

予備自衛官補募集

【応募資格】

- ▶一般＝18歳以上34歳未満の者
- ▶技能＝18歳以上で国家免許資格などを有する者（保有する技能に応じ上限年齢が53～55歳未満）

【受付期間】平成26年4月2日(水)まで(※必着)

【試験日】4月11日(金)～15日(火)のうち1日を指定

【合格発表】5月16日(金)

【採用後の教育訓練】

- ▶一般＝3年以内に50日の教育訓練
- ▶技能＝2年以内に10日の教育訓練

【教育訓練場所】陸上自衛隊・多賀城駐屯地(東北方面管内)

【待遇(身分)など】非常勤の特別職国家公務員

【教育訓練召集手当】日額7,900円支給(教育訓練参加日数分支給)

【教育訓練召集旅費】教育訓練に参加する場合、自宅から教育訓練駐屯地までの交通費を支給

【管理事項】▶食事＝教育召集期間中は無料支給▶宿泊教育召集期間中は駐屯地内の宿舎で生活(無料)▶被服＝教育訓練に使用する被服は無償貸与

※詳しい内容(各パンフレット・募集要項請求)や、申し込み方法はお問い合わせください。

自衛隊幹部候補生募集

【種別】①一般 ②歯科・薬剤科

【応募資格】

①一般＝20歳以上28歳未満(※▶22歳未満は大学卒(見込み)者▶26歳以上は大学院修士課程修了(見込み)者)

②歯科＝20歳以上30歳未満かつ専門の大学卒(見込み)者

薬剤科＝20歳以上26歳未満かつ専門の大学卒(見込み)者(※薬学修士取得者は28歳未満(資格年齢は平成27年4月1日現在))

【受付期間】平成26年4月25日(金)まで(※必着)

【試験日】1次試験＝5月10日(土)・11日(日) ※11日(日)は飛行要員のみ

【1次合格発表】5月30日(金)

※合格者は2次試験に進みます。

【待遇など】▶身分＝特別職国家公務員▶給与＝幹部候補生(大学卒)月額＝214,900円▶幹部候補生(大学院卒)月額＝232,000円▶賞与＝年2回(6月・12月)



【問い合わせ】自衛隊宮城地方協力本部 登米地域事務所 ☎0220(34)2244 または ☎0220(34)8807

パソコン相談・教室 3月の予定

●無料相談室

【日時】3月23日(日)午前10時～正午

【場所】迫にぎわいセンター

【申込期限】5日前まで

●有料相談室

インターネット体験を受け付けます。

※受講日前日まで予約してください

【場所】迫にぎわいセンター

【相談料】1時間1250円

●パソコン教室

①総会の資料を作ってみませんか

【日時】3月11日(火)午前10時～正午、3月14日(金)午後7時～午後9時

②初級教室を学びませんか

【日時】3月18日(火)午前10時～正午、3月21日(金)午後7時～午後9時

※受講日前日まで予約してください

【場所】迫にぎわいセンター

【受講料】2000円

●出前相談室

あなたの都合のいい時間にパソコンを持参いただき、相談に応じます。インターネットの使い方を指導します。

【受講料】1コース(4時間)

5000円

【全ての申し込み先】NPO法人パソコン・ネット・みやぎ
☎02220(21)5262

「こいのぼり」を お譲りください

中田町浅水地区では、次代を担う子どもたちが元気にたくましく育つようにと願いを込めて、毎年4月から5月にかけてこいのぼりを浅水ふれあいセンター敷地内に掲げています。家庭で使わなくなったり、こいのぼりがありましたら、ぜひご提供ください。

【提供できる場合】3月31日(月)までに、電話で連絡をお願いします。受け取り方法は、こちらからお宅まで直接伺います。

【連絡先・問い合わせ】浅水ふれあいセンター
☎02220(34)2008

※開館時間＝火曜～土曜日の午前8時30分～午後5時15分

気軽に「ご相談ください」 結婚相談会を開催

【日時】3月15日(土)▼1回目＝午後1時～午後1時45分
▼2回目＝午後2時15分～午後3時
▼3回目＝午後3時30分～午後4時15分

安心・安全・安価で予約承り中 (広告)

お料理 2,000円より承ります (バス送迎無料)



- 本社／登米市中田中学校通り TEL.0220-34-5002(代)
- 総合センター／中田総合支所通り TEL.0220-34-8707
- 花泉営業所／一関市花泉町駅前通り TEL.0191-82-2946

株式会社 誠香社 (広告)

ななかた葬祭 24時間電話受付 34-4856(代)

とよま斎苑「最大200名様可」 中田庁舎前「80名様可」 中田総合支所通り「100名様可」
～メモリアルホール～ ～葬祭会館～ ～葬祭ホール～
とよま斎苑 せいか苑 せいか苑 西ホール

祭壇＋葬具一式・20万円 会館使用料無料・光熱費1日1万円 自宅葬も同じ値段です。

福祉葬儀一式15万円、自宅葬壇も同じ料金です。(生活保護世帯対象)

3月の納税

後期高齢者医療保険料…第9期

忘れずに納めましょう
納税は便利な口座振替で

納期限/3月31日(月)

登米市の人口・世帯数

(平成26年1月末現在)

地区	世帯数	人口		
		男	女	計
迫	7,507	10,389	11,094	21,483
登米	1,827	2,464	2,715	5,179
東和	2,464	3,457	3,609	7,066
中田	4,879	7,792	8,253	16,045
豊里	2,093	3,364	3,505	6,869
米山	2,862	4,826	5,020	9,846
石越	1,618	2,611	2,702	5,313
南方	2,601	4,307	4,623	8,930
津山	1,230	1,745	1,907	3,652
合計	27,081	40,955	43,428	84,383

※平成24年7月9日から外国人住民も住民基本台帳制度の対象になったため、上記人口・世帯数に含まれています。

市内の交通事故発生状況

(平成26年1月末現在) ※佐沼・登米警察署調べ

	H26	H25	増減数
人身事故発生件数	38件	43件	▲5件
死者数	0人	0人	0人
負傷者数	52人	54人	▲2人
物損事故発生件数	187件	307件	▲120件

※平成26年1月からの延べ件数

警察署からのお知らせ

- 夕暮れ時のラ・ラ・ラ運動を実施しよう
- ①ライトの早め点灯②反射材の着用③右側注意
- 1月中の交通事故は、皆さんの安全運転のおかげで昨年より減少しました。引き続き安全運転を心掛けましょう。

【場所】 迫公民館
【対象者】 結婚を考えている本人またはその家族
【内容】 結婚についての悩みや困り事を相談し、解決方法を導き出します
※結婚相手を紹介するものではありませんのでご注意ください。
【申し込み方法】 開催日の前日までに、電話でお申し込みください
【申し込み・問い合わせ】 NPO法人ハピふる Wedding (受託業者)
☎070(5474)4683

市税の納付相談 夜間相談窓口

市税の納付について相談に応じます。
【日時】 3月27日(木)午後8時まで

【場所】 市役所迫庁舎(1階) 収納対策課
【問い合わせ】 総務部収納対策課
☎0220(22)2169
【第55回中田地区ピンポン大会参加者募集】
【日時】 3月27日(木)午後6時30分
※午後6時から受け付け
【場所】 中田総合体育館(なかだアリーナ)
【参加資格】 中田町内在住者または勤務者
【内容】 団体戦(3シングルス・硬式) ▼家族・職場・友人・男女混合可 ▼人数がそろわない場合や1人で参加希望の場合は、お問い合せください。
【参加費】 1人≒200円
【申し込み方法】 電話・ファクシミリ

ご存知ですか? 「食の安全・安心・五つ星」事業

食品衛生協会では、市民・消費者の皆さまに安心して食事をしていただくため、会員自らが行っている食品の衛生対策について提示をしています。プレートを目印にご利用ください。

「安全・安心・五つ星」の定義

- ★食品衛生協会会員の店
食中毒などの情報を常に収集しながら、安全・安心な食品の提供を心掛けています。
- ★検便検査実施店
従事者から食品などを介して発生する食中毒などを防止するためにを行っています。
- ★食品衛生管理記録実施店
食材の履歴や冷蔵庫温度・従業員の健康状態などを常に把握し、店の衛生状況を記録しています。
- ★ネズミ・衛生害虫の対策実施店
清潔で快適なお店づくりを心掛けています。
- ★食品衛生講習会受講店
食品衛生に関する新しい情報を習得し従業員への衛生知識の向上を努めています。



【問い合わせ】 登米保健所管内食品衛生協会 ☎0220(22)6120

※ファクシミリの場合は、なかだアリーナおよび大会事務局に備え付けの申込用紙か任意の用紙に、チーム名、参加者全員の氏名、年齢、電話番号を記入の上、中田地区ピンポン大会参加希望と明記して

ください。
【申込期限】 3月12日(水)
【申し込み・問い合わせ】 大会事務局(アリスモード(株)内) 担当 佐瀬
☎0220(34)6102
FAX0220(34)6103

人と環境への新しい優しさを目指して
お気軽にご相談下さい

株式会社 清建

本社 / 〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字南駒木袋212-3
TEL.0220-22-7085 FAX.0220-22-7658

有限会社 清建物流

TEL.0220-22-9430
FAX.0220-21-1535
本社 / 〒987-0512 宮城県登米市迫町森字平柳14-1

環境プロバイダ

有限会社 リースキン宮城

TEL.0220-22-3431
FAX.0220-22-3495
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江2丁目21(中江ビル)

仙台(営) / 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目18-1 泉ネットワーク7ビル2階 広告
TEL.022-797-5930 FAX.022-797-6980
南三陸(営) / 〒986-0782 宮城県本吉郡南三陸町入谷字大船沢313
TEL.0226-46-1027 FAX.0226-46-2122
URL www.kkseiken.co.jp E-mail info@kkseiken.co.jp

厚生労働大臣許可 指定居宅サービス事業所 有限会社 はさま看護婦・家政婦紹介所 すずらん託児室

TEL.0220-22-8064 FAX.0220-23-2728
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江2丁目21(中江ビル)
【すずらん託児室】 TEL.0220-22-7755

登米市は自主財源を確保するため、広報とめに有料広告を掲載しています。

ときめき人

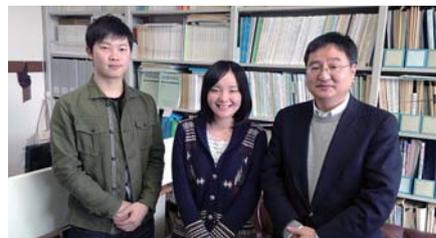
Tokimeki Bito

南方町・大門

佐藤 光沙さん

さとう ありさ
平成3年生まれ 血液型/A型

ビジネスとしての農業を学ぶ場として、市が今年度開講した「登米アグリビジネス起業家育成塾」。塾長を務めた東北大学大学院農学研究科の伊藤房雄教授を補佐し、4カ月に及ぶ育成塾で24人の塾生のサポートをしたのが同大4年の佐藤光沙さんです。育成塾では毎週開催された講座の準備を行ったほか、自らもプレゼンテーション講座で塾生たちを指導。塾生たちとの交流を通じ、「こんなにやる気のある若者が自分の地元の登米市にいたんだ」と認識を新たにされたそうです。「全国に誇れる登米市の人、モノの魅力を大学卒業後も発信していきたい」。佐藤さんは笑顔で話していました。



東北大学大学院の伊藤教授(右)と佐藤さん。左は佐藤さんと一緒に塾生をサポートした鎌田大地さん(同大3年)。鎌田さんも本市(南方町・峯)出身です

やる気ある若者がいっぱい
登米市の力を再認識しました

登米アグリビジネス起業家 育成塾で塾生たちをサポート



今月の表紙



◀2月18日、「カール油麩井味」が東北限定で新発売。その販売を記念して、とよま油麩井の会が登米小中学校の全生徒にカールをプレゼントしました。メーカーも「自信作です」と大鼓判。

編集室から

▼高校野球、春の甲子園出場を決めた気仙沼の東陵高校。本市出身の選手一人、正捕手の伊東拓人君は南方町の出身です。実は、私が南方町役場で広報を担当していた頃、「わが家のアイドル」で取材した子でした。ぜひ頑張ってくださいね。(遠藤)

▼とよま油麩井の会で監修した「油麩井味」のカールが発売されました。油麩井の会には、Bリーグランプリの横手、厚木、姫路大会でお世話になっており、今回のカール発売にびつくり。発売初日に買いました。ぜひ定番の味になってほしいですね。(増子)

▼「米川の水かぶり」の取材に行ってきた。わら装束をまとった男たちが屋根に水をかけながら練り歩く火伏せの奇祭。その中には人の小学生もいました。寒さに震えながらも力強く歩く姿に、伝統が受け継がれていく瞬間を感じました。(佐藤)

広報 Tome

Miyagi Tome Public Relations



モバイルとめ

(携帯電話版ホームページ)

<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

